

総務省

「ICT メディアリテラシー育成に関する
指導内容等についての調査研究」

< 報告書 >

平成 23 年 3 月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

目 次

1. 事業の概要と背景	1
1.1. 背景・目的	1
1.2. 実施体制	1
1.3. スケジュール	3
2. 指導内容の策定と制作	4
2.1. 目的	4
2.2. 基本コンセプトの策定	4
2.2.1. 平成 21 年度の調査研究結果の整理	4
2.2.2. 教材のコンセプト策定において配慮した点	4
2.3. 教材制作の基本方針	5
2.3.1. 教材制作の基本的な考え方	5
2.3.2. 教材のテーマ、背景、狙い	6
2.4. 指導資料等の制作	8
2.4.1. 指導資料等の制作目的	8
2.4.2. 指導資料等の構成	8
2.4.3. 指導資料等の制作手順	9
3. モデル授業の実施と指導項目・指導資料等の評価	10
3.1. モデル授業の目的	10
3.2. モデル授業の評価方法	10
3.2.1. 評価の観点	10
3.2.2. 評価項目	11
3.3. モデル授業の実施概要	11
3.4. モデル授業の評価	12
3.4.1. 『TPO に応じたメールマナー』教材における評価	12
3.4.2. 『「調べ学習」でのネット活用』教材における評価	28
3.5. 【参考】アンケート集計結果	42
3.5.1. 『TPO に応じたメールマナー』教材における集計結果	42
3.5.2. 『「調べ学習」でのネット活用』教材における集計結果	50
3.5.3. アンケート調査票	55
4. 保護者 Web アンケートの実施による指導資料等の有用性の検証	60
4.1. 保護者 Web アンケートの目的	60
4.2. 保護者 Web アンケートの実施概要	60
4.3. 保護者 Web アンケートの調査結果	61

4.3.1.	『TPO に応じたメールマナー』教材における調査結果	61
4.3.2.	『「調べ学習」でのネット活用』教材における調査結果.....	65
4.3.3.	自由回答（一部抜粋）	69
4.4.	保護者 Web アンケートに関する考察.....	71
4.5.	【参考】アンケート調査票	72
5.	今後の活動についての検討	74
5.1.	普及方策について	74
5.2.	これからの教材開発について	76

1. 事業の概要と背景

1.1. 背景・目的

近年、インターネットや携帯電話などの ICT メディアを子どもたちが日常的に利用するようになり、子どもたちの生活における位置づけが大きくなる中で、ICT メディアに関連した様々な事件やトラブルが発生するようになった。

こうした状況を踏まえ、総務省においては ICT メディアリテラシー¹育成手法について調査研究を行い、小学校 5、6 年生を主な対象とした「ICT メディアリテラシー育成プログラム」を開発し、効果の検証・改良を経て普及を図ってきた（平成 18 年度～20 年度）。

さらに、平成 21 年度については、中学生・高校生を主な対象とした「インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容等に関する調査研究」を実施し、指導のために必要なカリキュラム設計を行い、「主体的なコミュニケーション（自他尊重のコミュニケーション）」に関する指導資料等を制作した。

本事業は、これらの成果も参考²にしつつ、中学生・高校生を主な対象とし、メールによるコミュニケーションや情報化社会への主体的な参加やインターネットの特性を踏まえたクリエイティビティ（創造性）、クリティカルシンキング（情報を批判的に読み解く能力）に関する能力向上を図るための具体的な指導内容や指導資料等について調査研究を行い、もって ICT メディアの健全な利用の促進に資することを目的として実施するものである。

1.2. 実施体制

本事業の実施体制は、次のとおりである。

(1) 事務局：三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

本事業全般における実施主体であり、企画から運営管理業務を行った。具体的には、関連事項の調査から教材の企画・設計、下記 (2) 有識者委員会の調整と協議、モデル授業、アンケート等の実施等を行った。

¹ 本事業において、単なる ICT の活用・操作能力のみならず、メディアの特性を理解する能力、メディアにおける送り手の意図を読み解く能力、メディアを通じたコミュニケーション能力までを含む概念をいう。

² 「ICT メディアリテラシー育成プログラム」（平成 18 年度～20 年度）

「インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容等に関する調査研究」（平成 21 年度）

(http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/index.html)

(2) 有識者委員会

「コミュニケーション、情報モラル等の教育に関する専門家」、「学習対象者に対して、日常的に教育活動を行っている者」、「コミュニケーション、情報モラル等に関する授業・セミナー等の実績のある者」が有識者委員として就任した。本事業における調査研究への支援及び評価等を実施した。

分野	委員
○コミュニケーション、情報モラル等の教育に関する専門家	・赤堀 侃司 白鷗大学 教授／東京工業大学名誉教授 ・榎本 竜二 東京女子体育大学 准教授
○学習対象者に対して、日常的に教育活動を行っている者	・小野 有紀子 小平市立小平第四中学校 主任教諭 ・黒田 英子 東京都立板橋有徳高等学校 主任教諭
○コミュニケーション、情報モラル等に関する授業・セミナー等の実績のある者	・山中 計一 教育の情報化アドバイザー

また、榎本委員、小野委員、黒田委員に依頼し、教材のテーマ等について検討する「作業部会」を設置した。

(3) 調査研究協力校

本事業の指導資料を使用したモデル授業の実践及びアンケート等の調査に御協力いただいた。





- ・東京都立板橋有徳高等学校³
- ・小平市立小平第四中学校

³ 映像教材の撮影にあたっては、東京都立板橋有徳高等学校の黒田主任教諭をはじめ、同校の教員や生徒の皆様に御協力いただいた。

1.3. スケジュール

本事業の進捗にあたっては、次のような作業項目と目的とする成果を設定した（図表 1）。
その上で、次のスケジュールに則って実施した（図表 2）。

図表 1 主な作業項目と目的とした結果

(1) 指導内容の基本コンセプト策定	
<ul style="list-style-type: none"> 基本コンセプト策定 有識者ヒヤリング 	 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">基本コンセプト確定</div>
(2) 指導内容の構成・制作	
<ul style="list-style-type: none"> 指導内容の構成検討・教材制作 有識者委員会の助言 	 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">指導資料等（案）作成</div>
(3) 指導内容（案）の実施とその分析	
<ul style="list-style-type: none"> モデル授業の準備 モデル授業の実施 	 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">実施ポイントの発見</div>
(4) 指導内容（案）の評価と改善	
<ul style="list-style-type: none"> モデル授業の評価 有識者委員会の助言 	 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">指導資料等の改善</div>
(5) 報告書作成	

図表 2 実施スケジュール

フェーズ	8月 前半	8月 後半	9月 前半	9月 後半	10月 前半	10月 後半	11月 前半	11月 後半	12月 前半	12月 後半	1月 前半	1月 後半	2月 前半	2月 後半	3月 前半	3月 後半
1. 指導内容の基本コンセプト策定																
2. 指導内容の構成・制作																
3. 指導内容(案)の実施とその分析																
4. 指導内容(案)の評価と改善																
5. 報告書作成																

2. 指導内容の策定と制作

2.1. 目的

総務省が、平成 21 年度に実施した「インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容等に関する調査研究」の結果に基づき、中学生・高校生を主な対象として、メールによるコミュニケーションや情報化社会への主体的な参加やインターネットの特性を踏まえたクリエイティビティ（創造性）、クリティカルシンキング（情報を批判的に読み解く能力）に関する能力向上のため、以下に掲げる必要な知識・スキル等学習内容を検討した上で、指導内容としてとりまとめた。

2.2. 基本コンセプトの策定

2.2.1. 平成 21 年度の調査研究結果の整理

本事業における ICT メディアリテラシーのコンセプトと構成要素は、「インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容等に関する調査研究」（平成 21 年度）で定めた「ICT メディアリテラシー学習項目」（中学生・高校生用）に基づくものとした。

また、カリキュラムを検討する中で、今年度の教材制作において選定した 4 つのテーマと、7 つの指導・学習内容との関係を次のように整理した（図表 3）。

図表 3 今年度教材のテーマと主な指導・学習内容との関係

テーマ	主な指導・学習内容
I. メールによるコミュニケーションのポイント	①ICTメディアを操作できる能力 ②主体的にコミュニケーションする能力
II. クリティカルシンキング(情報を批判的に読み解く能力)	⑥ICTメディアにおける送り手の意図を批判的に読み解く能力
III. クリエイティビティ(創造性)	④情報を処理・編集する能力
IV. 情報化社会への主体的参加	④情報を処理・編集する能力 ⑤情報を表現する能力 ③情報化社会を生き抜く能力
【共通】	⑦ICTメディアを安全に使う能力

2.2.2. 教材のコンセプト策定において配慮した点

教材制作においては、特に以下の点に配慮した。

①ICT の有用性の再認識

ICT メディアに関係する犯罪や虚偽の情報、誹謗中傷等、いわゆる「影」の部分に留意する必要はあるが、これまでの教材がその部分に重点をおきすぎていた嫌いもある。そのため、学校・社会生活の中で ICT メディアが果たす役割や有用性等、いわゆる“光”の部分

を再認識した上で、創造力、表現力、コミュニケーション能力の向上など情報活用能力の育成を促すことに重点をおいた。

②既存の教材等と類似しない

「インターネットの特性を踏まえた情報の受発信・情報交換についての指導内容等に関する調査研究」（平成 21 年度）では、既存教材の調査を実施しており、それらの分析結果からカリキュラムのテーマや指導・学習内容の要件を定義している。

これらに配慮した上で、教材の内容やテーマ（状況）設定について、既存教材や文献調査を行い、既存教材に類似物がないことを確認した。

③“保護者等による家庭指導”を重視

平成 24 年度から完全実施予定の中学校の新学習指導要領（高校は平成 25 年度から）においては、国語科を中心に従来の学習指導要領と比較して、ICT メディアリテラシーとの関連付けが明確化される傾向（道徳の中で「情報モラル」に関する指導が明記された点は特徴的）にあり、学校での積極的な指導が期待される。しかし実際は、ゆとり教育への反省等から必修教科の指導内容が増え、裁量性のある授業時間が大幅に削減される可能性もあるため、学校での指導には自ずと限界があると考えた。

そもそも、携帯電話にしてもコンピュータにしても、大半は学校外での使用がメインであり、使用環境やルール等も家庭によって大きく異なる。このような状況下においては、保護者による適切な指導や監視こそが重要であり、保護者が「積極的に利用してみよう」、「関与した方が良い」と思えるような観点を盛り込むことを重視した。

2.3. 教材制作の基本方針

2.3.1. 教材制作の基本的な考え方

平成 21 年度の調査結果を踏まえた上で、今年度の教材制作にあたっての基本的な考え方を次のとおりとした。

- (1) 一般の教員が幅広く利用できる教材を 2 本開発する。教員の事前準備は極力少なくして済み、映像教材を中核に据えた 1 授業時間（50 分）で気軽に実施できる教材とする。また、保護者が自宅でも利用しやすい点にも配慮する。
- (2) 1 授業時間の中で扱いやすいように、映像教材の長さに配慮する。
- (3) 学校で授業を実施する場合の“現場感覚”を反映させるため、現場の教員から指導イメージについてご意見を頂きながらシナリオやワークシート等を作成する。指導案は教員に作成を依頼する。
- (4) モデル授業は、外部講師ではなく学校現場の教員に実施して頂く（「作成に関わった教員」と「初めて関わる教員」の 2 段階で実施）。

2.3.2. 教材のテーマ、背景、狙い

教材のテーマ・背景・狙いは、次のとおりとした。

(1) シナリオ A：「TPO に応じたメールマナー」

対応する 主なテーマ	I. メールによるコミュニケーションのポイント IV. 情報化社会への主体的参加
主な対象	中学生、高校生（※モデル授業では高校生を想定）
設定背景	<ul style="list-style-type: none"> ある調査によると、中高生のコミュニケーション手段として、友人・家族といった身近な相手とのコミュニケーションでは携帯電話による「メール」の使用が大半を占めている。 今後、学校を卒業し、進学・就職をするにあたり、先生や上司など様々な立場の人々と、ICT メディアの主要なコミュニケーション手段である「メール」を使ってコミュニケーションをとる機会は確実に増えていくことになる。 しかし、中学生、高校生のみならず、大学生でもメールマナーの不足が指摘されており、相手に応じたメールの使い分けが大きな課題の一つとなっている。
狙い	<ul style="list-style-type: none"> 中学生・高校生が【情報化社会に主体的参加】するために、ICT を活用した主要なコミュニケーション手段である「メール」がますます重要になっている。 学年が上がればあがるほど、メールでコミュニケーションを取る相手は多様化する。そのため、TPO（Time, Place, Occasion）に応じた使い分け方が重要となる。 TPO に応じて、メールを受け取る相手との関係や状況を把握して、柔軟かつ適切に実行できる【メールによるコミュニケーションのポイント】を習得する。

(2) シナリオ B：『調べ学習』でのネット活用」

<p>対応する 主なテーマ</p>	<p>II. クリティカルシンキング III. クリエイティビティ IV. 情報化社会への主体的参加</p>
<p>対象</p>	<p>中学生、高校生（※モデル授業では中学生を想定）</p>
<p>設定背景</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ある調査によると、中高生のパソコンの利用内容は、9割以上が「インターネットで調べものをする」となっている。 ・ 初等・中等教育から高等教育まで、インターネットでの情報を写すといった著作権問題が絶えない。また、ネット上で掲載されている情報を鵜呑みにしてしまったり、検索順位上位の情報しか見ないといった、情報を客観的に捉える（クリティカルシンキング）意識が希薄という指摘がある。 ・ このような状況が続けば、独自の考えを創り上げるクリエイティビティの阻害にも繋がりがねないと懸念されている。 ・ 一方、インターネットで調べるだけでなく、図書館で調べたり人に聞くなど“リアルな手段”を適切に組み合わせて活用することは、情報化社会への主体的参加を促進する上で重要な基盤となる。
<p>狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネット上の情報や掲載順位を不用意に全て信じるのではなく、客観的に観察して利用する力を身につける【クリティカルシンキング】。また、著作権問題についての理解も深める。 ・ 様々な意見・主張を比較検討して、自分なりの意見をまとめる【オリジナリティ、クリエイティビティ】。 ・ 図書館など“リアル”なものと、ネットの長所短所を理解して、両者の長所をうまく組み合わせた形で調べる方法を学ぶ【リアルとネットの融合】。

2.4. 指導資料等の制作

2.4.1. 指導資料等の制作目的

指導資料等の制作目的は、策定した指導内容について、中学校・高等学校の教員及び、セミナー等で本カリキュラムを実施する指導者や一般家庭の保護者が、専門的な知識・スキル・経験を有していなくても円滑に指導できる資料を提供することである。

2.4.2. 指導資料等の構成

制作する指導資料等の主な構成は、次のとおりである。指導資料・補助教材をそれぞれ完成させた後、指導用マニュアルを含む教材パッケージとなった「指導資料」を制作する。

(1) 指導資料

学習指導案
【留意点】主に中学校・高等学校の授業での実施を想定し、「1 授業時間（50 分）」で手軽に実施できる授業の展開例を示す。専門的な知識、スキル、経験を有していない教員であっても一定レベルの指導ができるように、指導上・運営上のポイント等の記述を充実させる。

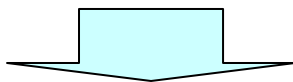
(2) 補助教材

①ビデオクリップ
【留意点】中高生がイメージしやすい、共感しやすいシチュエーションを意識する。ビデオクリップの視聴を中核に据えて指導ができるように、指導ポイントを明確にして、ワークシートとの連携性に留意する。映像自体に指導ポイントを盛り込むが、視聴時間が長くなりすぎないようにする。
②ワークシート
【留意点】ビデオクリップの視聴と連動させ、指導者の指示に従って学習者が記入する形式とする。単に感想を記入するのではなく、“あなただったらどうしますか？”といった観点に力点をおいた設問を用意する。
③掲示用スライド
【留意点】ビデオクリップのストーリーの中で、重要なシーンや学習のポイントについて、学習者の理解を助けるスライドを制作する。

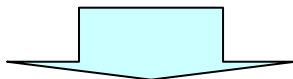
2.4.3. 指導資料等の制作手順

指導資料等の制作手順は、次のとおりである。

①事務局で素案の作成。 ※学習指導案は、黒田委員・小野委員が素案を作成。



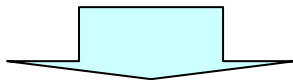
②作業部会で検討。作業部会での意見に基づき修正。



③有識者委員会で検討。有識者委員会での意見に基づき修正。



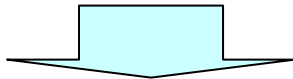
④第1回モデル授業による評価。モデル授業の評価結果に基づき修正。



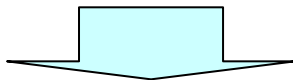
⑤第2回モデル授業による評価。モデル授業の評価結果に基づき修正。



⑥保護者Webアンケートの実施による有用性の検証。 【指導資料・補助教材の確定】



⑦指導資料（指導用マニュアル含む）の制作。



⑧有識者委員の承認。 【指導資料（指導用マニュアル含む）の完成】

※完成した指導資料等は、別添の「参考資料」を参照。

3. モデル授業の実施と指導項目・指導資料等の評価

3.1. モデル授業の目的

モデル授業の目的は、作成した指導資料等を利用して、調査研究協力校においてモデルとなる標準的な授業を実施し、その後に行う生徒・教員に対するアンケート・ヒアリングによる評価をもとに、指導項目・指導資料等の見直しを行い、指導資料等を完成させることである。

3.2. モデル授業の評価方法

3.2.1. 評価の観点

モデル授業の評価にあたって、以下の4つの観点を中心に実施した（図表4）。

図表4 モデル授業評価の4つの観点

- | |
|--|
| <p>① 授業満足度：
本教材を使った授業に、どの程度・どのように満足しているのか</p> <p>② 学習理解度：
当初設定した学習内容の理解度はどうか</p> <p>③ 教材有用度：
授業実施を踏まえて、本教材の有用性をどのように捉えているのか</p> <p>④ 活用意向：
今後、本教材の活用についてどのように考えているのか</p> |
|--|

3.2.2. 評価項目

生徒用アンケート及び教員用アンケートの項目を、評価の観点ごとに整理したものを以下に記載する(図表 5)。これらの評価項目をもとに、モデル授業に応じた調査票を設計した。

なお、アンケートは、「とても思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の5段階で評価した。

図表 5 アンケートの評価項目

観点	生徒用アンケート項目	教員用アンケート項目
授業満足度	この授業を受けてよかった。	指導する立場として、この授業全般に満足した。
学習理解度	「学習ポイント①」の理解が深まった。	「学習ポイント①」の理解を深めるのに役立った。
	「学習ポイント②」の理解が深まった。	「学習ポイント②」の理解を深めるのに役立った。
	「学習ポイント③」の理解が深まった。	「学習ポイント③」の理解を深めるのに役立った。
	先生の説明はわかりやすかった。	生徒に向けてわかりやすく説明できた。
教材有用度	ビデオ映像は学習に役立った。	ビデオ映像は指導に役立った。
	ワークシートは学習に役立った。	ワークシートは指導に役立った。
	スライド資料は学習に役立った。	スライド資料は指導に役立った。
	—	シナリオ(絵コンテ)は指導に役立った。
活用意向	この授業で学んだことを今後活かしていきたい。	この授業を今後も継続して実施していきたい。

3.3. モデル授業の実施概要

各教材で2回のモデル授業を実施した。第1回目のモデル授業を実施し、その授業を観察した上で、教員等へのヒヤリング、教員および生徒へのアンケートの実施を行い、教材の内容や授業実施方法について再検討を行った。その上で、第2回目のモデル授業を実施した。

第1回目のモデル授業では、本事業の有識者委員であり、教材開発にもご協力頂いた黒田主任教諭、小野主任教諭に実施して頂いた。そして、改善点を検討した上で、第2回目は他の教員に実施して頂き、評価を行った。

実施概要は、次のとおりである。

【「TPO に応じたメールマナー」】

< 第 1 回目 >

協力校	東京都立板橋有徳高等学校
指導教員	黒田 英子 主任教諭
日時	2011 年 1 月 24 日 (月) 13:20~14:10
対象	高校 1 年生 (38 名)
授業枠	情報 A

< 第 2 回目 >

協力校	東京都立板橋有徳高等学校
指導教員	柴沼 明奈 教諭
日時	2011 年 2 月 4 日 (金) 10:45~11:35
対象	高校 1 年生 (40 名)
授業枠	情報 A

【『調べ学習』でのネット活用】

< 第 1 回目 >

協力校	小平市立小平第四中学校
指導教員	小野 有紀子 主任教諭
日時	2011 年 2 月 18 日 (金) 8:45~9:35
対象	中学 2 年生 (25 名)
授業枠	家庭科

< 第 2 回目 >

協力校	小平市立小平第四中学校
指導教員	常世田 忠久 主任教諭
日時	2011 年 2 月 18 日 (金) 13:30~14:20
対象	中学 2 年生 (39 名)
授業枠	選択技術・家庭科

3.4. モデル授業の評価

3.4.1. 『TPO に応じたメールマナー』教材における評価

(1) モデル授業において使用した指導資料等

モデル授業で使用した指導資料等（「①学習指導案」、「②生徒用授業実施前アンケート」、「③ワークシート」を掲載）は、次のとおりである。

①学習指導案

学習指導案			
流れ	時間	学習活動	指導上、運営上のポイント
導入	5分	【挨拶等】	以前にメールに関する学習を行ったことがあれば簡単に振り返りを行い、生徒にメールのマナーについて学習することを意識づける。
展開1	5分	【映像視聴】 ビデオクリップを視聴する。	「吉田先輩は宮下くんが送ったメールにどんな指摘をしたでしょうか」と画面に表示された時点で映像を一時停止する。
	10分	【実習1】 ①ワークシート1の1-1に記入をする。 ②気がついた問題点について発表を行う。 ③ワークシート1の1-2に記入をする。	メールの内容を振り返り、気がついた問題点についてワークシートに記入させる。 生徒に発言させ、問題点について共通理解を図る。 どのようにすれば適切なメールになるかを各自で考えて記入するように指示する。
	8分	【映像視聴】 一時停止したビデオクリップの続きを視聴する。	
	7分	【実習2と講義】 ①ワークシート1の1-2を自己採点する。 ②TPOについて説明を聞き、理解を深める。	採点箇所（言葉遣い、日時を入れるなど）を板書し、必要な点が文面にあるかどうか確認させる。 T: time…時間、P: place…場所 O: occasion…場合 という用語を板書し、「時間、場所、場合」に応じて言葉やマナーなどを使い分けるといふことが必要であることを説明する。
展開2	8分	【実習3と講義】 ①ワークシート2の2-1に記入をする。 ②ワークシート2の2-2に記入をする。 ③気がついた問題点について発表を行う。	メールの文面だけでなく、メールを活用する上でのマナーについて考えさせる。 生徒に発言させ、問題点について共通理解を図る。
展開3	8分	【実習4と講義】 ①ワークシート3の3に記入をする。 ②コミュニケーションについて説明を聞く。 ③ワークシート3の4に記入をする。	メールのマナーだけでなく、必要に応じてコミュニケーションの方法を変える必要があることを意識づける。 学習内容が定着するように授業の感想を記入させる。
まとめ	4分	【講義】 「TPOという言葉が意味することは何か」について説明を聞き、さらに理解を深める。	TPOとは言葉だけでなく、行動や服装などを含め、状況に応じて適切なふるまいをすることであることを説明し、学習の定着を図る。

②生徒用授業実施前アンケート

【TPOに応じたメールマナー】

授業実施前アンケート（生徒）

年 組 番 名前 _____

以下の質問について、() 内に○もしくは該当する内容を記入して下さい。

1. 普段、何を使ってメールをしていますか。
 携帯とパソコン両方
 主に携帯
 主にパソコン
 メールをしない
2. 平均して1日（平日）どれくらいの時間メールをしていますか。
() 時間 () 分
3. メールによるコミュニケーションで失敗したことや困った経験はありますか。
 はい (内容: _____)
 いいえ
4. 身近な人(友人・家族など)とのメールによるコミュニケーションは適切に対応できていると思いますか。
 とてもそう思う
 そう思う
 どちらともいえない
 そう思わない
 まったくそう思わない
5. 相手や状況に応じて、メールの内容や表現を使い分けることができていると思いますか。
 とてもそう思う
 そう思う
 どちらともいえない
 そう思わない
 まったくそう思わない
6. 状況に応じて、コミュニケーション手段（メール、電話、直接話す等）を使い分けることができていると思いますか。
 とてもそう思う
 そう思う
 どちらともいえない
 そう思わない
 まったくそう思わない

③ワークシート

【ワークシート1】

テーマ：「TPOに応じたメールマナー」

年 組 番 名前 _____

1. 宮下くんが社会人である小林先輩に送ったメールにはいくつか適切でない部分があります。

1-1. 宮下くんが送ったメールの中で改善したほうがよい部分を指摘してみてください。また何がいけなかったのか、あなたの意見を記入してみましょう。

改善点	理由	<宮下くんが送ったメール>
<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>無題</p> <hr/> <p>小林先輩初めまして👋 西高バスケット部の後輩です。 小林先輩、高校の時に全国 行ってますよね？🏀 暇だったら一度、練習に 来てもらえませんか？ お待ちしております▶</p> </div>

1-2. あなたが宮下くんなら社会人である小林先輩にどのようなメールを送りますか。実際に下記に記入してみましょう。

件名 (_____)

本文

【ワークシート2】

テーマ：「TPOに応じたメールマナー」

年 組 番 名前 _____

2. 映像の中にあった次のシーンについて、あなたはどのように考えますか。問題点があれば指摘してください。また、その場合、どのようにすれば良かったのか、あなたの意見を記入してみましょう。

2-1. 吉田先輩が直接、宮下くんに小林先輩のメールアドレスを教えた。

メアド教えるから連絡
してみる？



2-2. 宮下くんが小林先輩にメールの返信をしていない。



さあ一週から忙しく
なるぞー♪ (未返信)

【ワークシート3】

テーマ：「TPOに応じたメールマナー」

年 組 番 名前 _____

3. 映像の中にあったシーンで、小林先輩からメールをもらった吉田先輩はメールではなく電話をかけました。なぜメールではなく電話をかけたと思いますか。

後輩が何か失礼を
しましたでしょうか…。



4. 本日の授業で学んだことを記入してみましょう。

(2) モデル授業の様子

モデル授業の様子を写真にて紹介する。

<第1回モデル授業>



<第2回モデル授業>



(3) 第1回モデル授業の評価結果

①授業満足度の評価

生徒用アンケート及び教員用アンケートの結果より、授業実施後の生徒による「授業満足度」の評価結果（生徒評価）は、以下の通りである（図表 6）。数値は5段階評価での回答結果の平均である。なお、教員による評価結果（教員評価）も参考までに記載する（以下同様）。

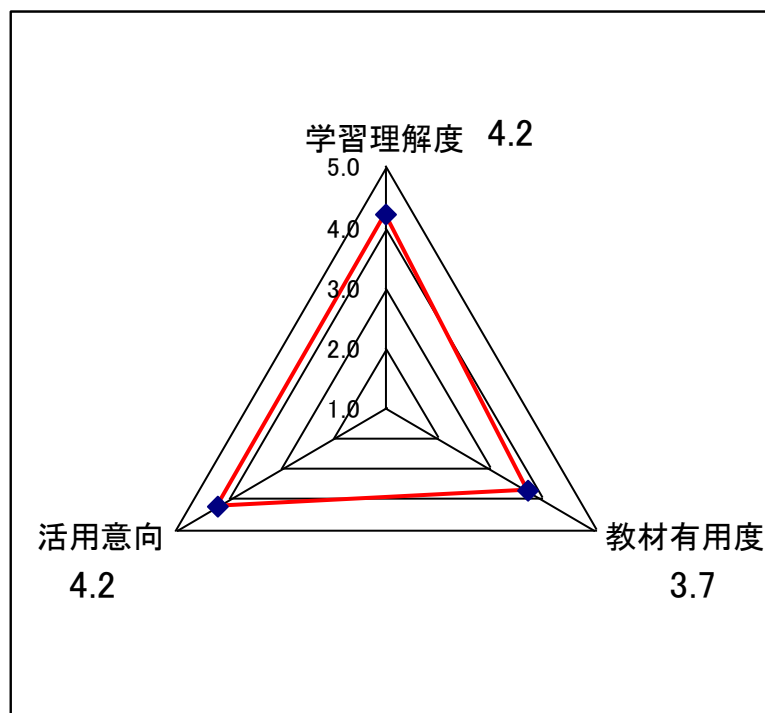
図表 6 「授業満足度」の生徒・教員評価

	授業満足度
生徒 (n=38)	4.0
【参考】教員 (n=1)	4.0

また、「授業満足度」に影響を与える観点である「学習理解度」「教材有用度」「活用意向」の評価結果は以下の通りである（図表 7）。

図表 7 「学習理解度」「教材有用度」「活用意向」の生徒・教員評価

	学習理解度	教材有用度	活用意向
生徒 (n=38)	4.2	3.7	4.2
【参考】教員 (n=1)	3.8	4.6	5.0

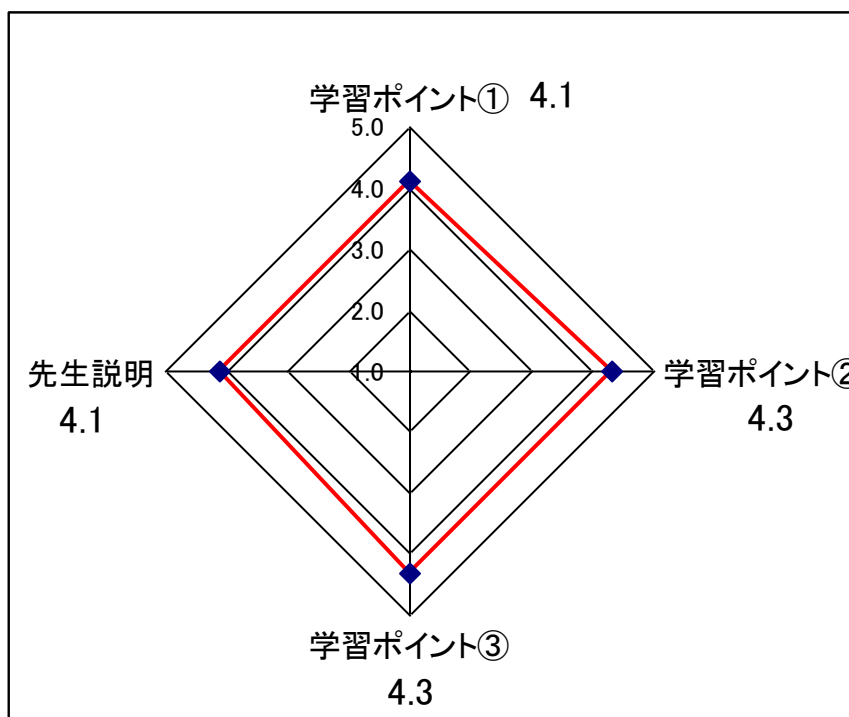


②学習理解度の評価

「学習理解度」を構成する項目である「学習ポイント①」「学習ポイント②」「学習ポイント③」「先生説明」の評価結果は、以下の通りである（図表 8）。

図表 8 「学習ポイント①」「学習ポイント②」「学習ポイント③」「先生説明」の生徒・教員評価

	学習ポイント ①	学習ポイント ②	学習ポイント ③	先生説明
生徒 (n=38)	4.1	4.3	4.3	4.1
【参考】教員 (n=1)	4.0	4.0	4.0	3.0

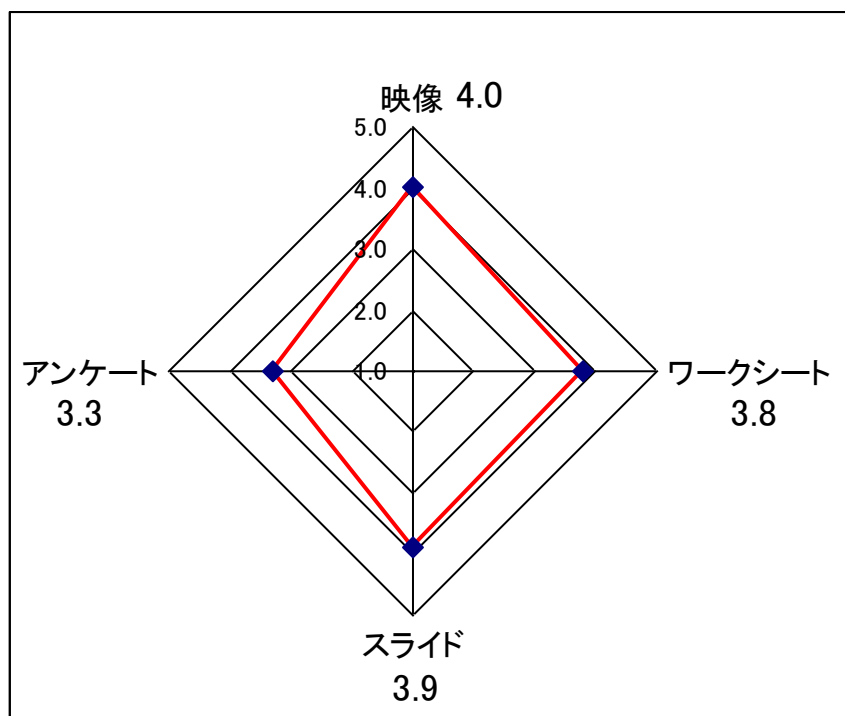


③教材有用度の評価

「教材有用度」を構成する項目である「映像」「ワークシート」「スライド」「アンケート」の評価結果は、次のとおりである（図表 9）。

図表 9 「映像」「ワークシート」「スライド」「アンケート」の生徒・教員評価

	映像	ワークシート	スライド	アンケート
生徒 (n=38)	4.0	3.8	3.9	3.3
【参考】教員 (n=1)	5.0	5.0	5.0	3.0



(4) 第1回モデル授業に関する考察

生徒アンケートの結果、「授業満足度」(4.0)、「学習理解度」(4.2)、「活用意向」(4.2) についての評価は高い。

一方、「教材有用度」(3.7) の評価はやや低くなっている。その主な原因としては、時間と指導内容のバランスが考えられる。指導教員からは、初回の授業ということで、作成した教材を時間内にすべて対応することに注力した結果、一部の生徒がワークシートに記入する時間が足りなかったなどの振り返りがあった。「ワークシート」(3.8) の評価もやや低くなっており、生徒からは「時間が少なかったのであまり考えられなかった。」といった感想も散見された。ワークシートの内容自体に不満というよりは、記入時間が足りなかったことへの不満だと考えられる。ワークシート 1 については、想定以上に生徒が熱心に書き込んでいる姿が見られた。このように、授業の実施スタイルや生徒の ICT 等についての理解のレベル、確保できる授業時間等に応じて、ワークシートを選択して利用するなどの工夫が必要だと考えられる。

また、本教材では導入の部分で生徒にメールマナーについて学習することを意識づけるため、「授業実施前アンケート」を行った。その設問の 1 つ(「平均して 1 日(平日) どれくらいの時間メールをしていますか。」) は生徒には回答しづらかったようである。また、「アンケート」(3.3) の評価もやや低くなっている。学習の中核的な部分ではないため、アンケートについても回答しやすい設問への修正が必要だと思われる。

特徴的な結果としては、「活用意向」(4.2) の評価が高くなって点である。授業を受けた生徒にヒヤリングしたところ、「映像があったので非常に理解しやすかった。題材も同年代による部活といった身近なテーマ設定だったので、より理解がしやすかった。先輩との関係といった点も興味が持てた。振り返ってみると、普段からメール活用のルールを曖昧にしたまま使っているように感じることもあったが、日常ではあまり考える機会がなかった。高校生は社会人になる準備段階でもあり、この教材の授業を通して、目上の人への言葉遣いや態度についてあらためて考える機会になった。」といった意見が聞かれた。

指導教員からは、「ICT の使い方が問題となるような例を題材にした、公的機関や民間企業が作成した映像教材はすでに使ったことがある。ただし、メールなど ICT の活用方法をしっかりと理解して利用すれば社会に出た際に役立つといった観点でのリテラシー教材は他にはあまりなかった。本教材は今後も活用していきたい。」といった意見が聞かれた。当初、教材のテーマや状況設定について検討した際に、高校生には内容面で少し易しすぎるのではないかという懸念もあったが、本教材が有用であることが確認できた。

(5) 第2回モデル授業に向けての改善点

上記の考察を踏まえて、次のような改善を行った。

①ワークシートの選択的利用

ワークシートの記入に時間が掛かってしまう生徒も散見されたため、ワークシート2と3の設問については、記入ではなく生徒に発表させる方法をとることとした。そうすることで、生徒が熱心に書き込んでいたワークシート1への記入時間を十分に確保するよう配慮した。

②授業実施前アンケートの設問修正

「平均して1日(平日)どれくらいの時間メールをしていますか。」という設問を、「平均して1日(平日)にどれくらいの頻度でメールのやりとりをしていますか。」と修正した。つまり、時間数を問うのではなく、回答しやすいように選択肢(「1日に数十件以上」・「1日に数件程度」・「1日にしないこともある」)を設けて回答してもらうこととした。

(6) 第2回モデル授業の評価結果

①授業満足度の評価

生徒用アンケート及び教員用アンケートの結果より、生徒による授業実施後の「授業満足度」(生徒評価)の評価結果は、以下の通りである(図表10)。なお、教員による評価結果(教員評価)も参考までに記載する(以下同様)。

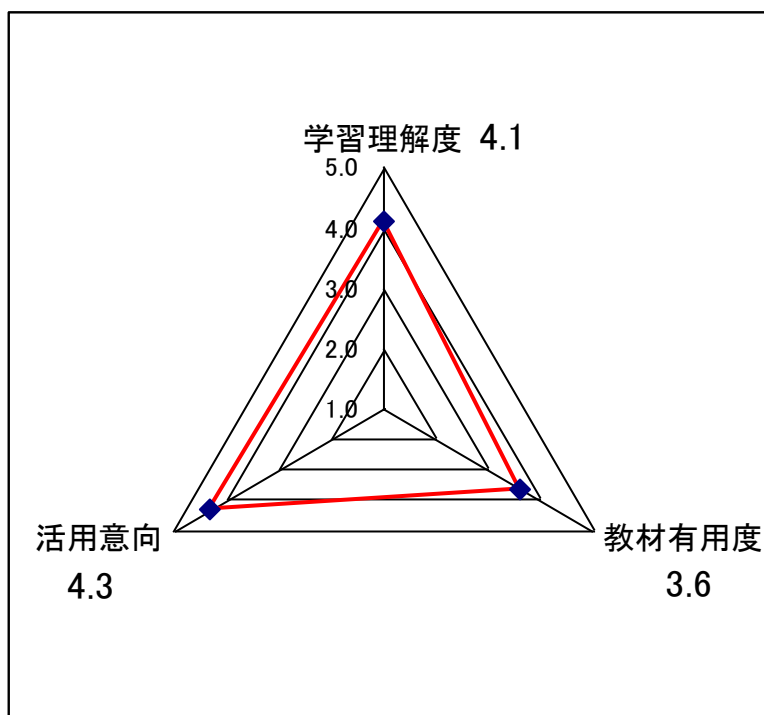
図表 10 「授業満足度」の生徒・教員評価

	授業満足度
生徒 (n=40)	4.1
【参考】教員 (n=1)	5.0

また、「授業満足度」に影響を与える観点である「学習理解度」「教材有用度」「活用意向」の評価結果は以下の通りである（図表 11）。

図表 11 「学習理解度」「教材有用度」「活用意向」の生徒・教員評価

	学習理解度	教材有用度	活用意向
生徒 (n=40)	4.1	3.6	4.3
【参考】教員 (n=1)	4.5	4.4	5.0

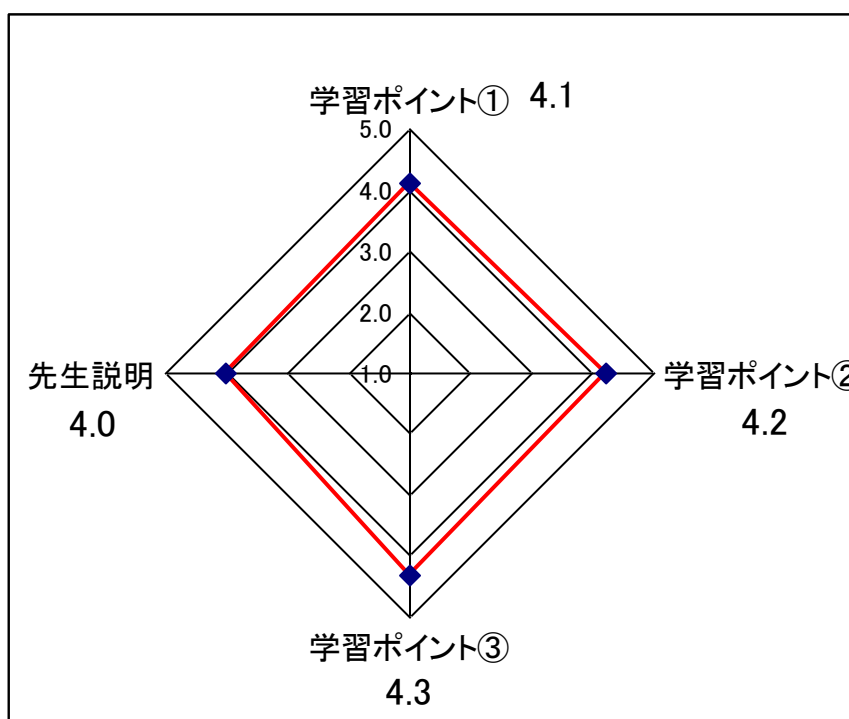


②学習理解度の評価

「学習理解度」を構成する項目である「学習ポイント①」「学習ポイント②」「学習ポイント③」「先生説明」の評価結果は以下の通りである（図表 12）。

図表 12 「学習ポイント①」「学習ポイント②」「学習ポイント③」「先生説明」の生徒・教員評価

	学習ポイント ①	学習ポイント ②	学習ポイント ③	先生説明
生徒 (n=40)	4.1	4.2	4.3	4.0
【参考】教員 (n=1)	5.0	3.0	5.0	5.0

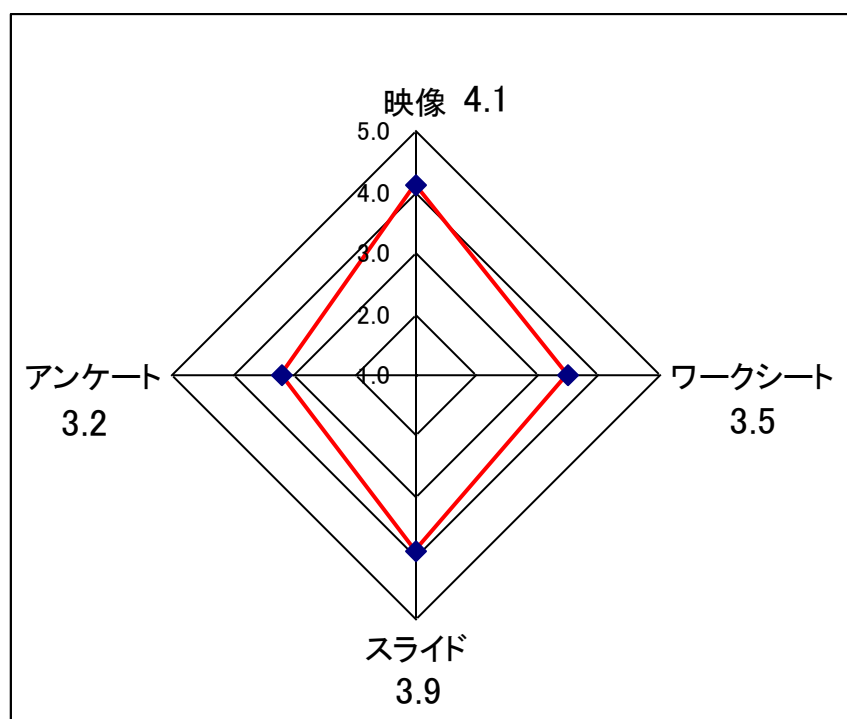


③教材有用度の評価

「教材有用度」を構成する項目である「映像」「ワークシート」「スライド」「アンケート」の評価結果は以下の通りである（図表 13）。

図表 13 「映像」「ワークシート」「スライド」「アンケート」の生徒・教員評価

	映像	ワークシート	スライド	アンケート
生徒 (n=40)	4.1	3.5	3.9	3.2
【参考】教員 (n=1)	5.0	4.0	5.0	4.0



(7) 第2回モデル授業に関する考察

生徒アンケートの結果、「授業満足度」(4.1)、「学習理解度」(4.1)、「活用意向」(4.3) についての評価は、第1回モデル授業と同じように高かった。

一方、「教材有用度」(3.6) の評価については第1回と同様、やや低いままであった。「映像」(4.1) については依然として評価は高いが、改善を行った「ワークシート」(3.5) については評価が伸びなかった。ただし、ワークシートで選択肢回答を行ったため、時間が少なかったといった感想は聞かれなかった。指導教員からも1授業時間(50分)の中で適切に時間配分ができたとの振り返りがあった。今後の改善点としては、1授業時間を前提とした場合にワークシート3枚はボリュームが多く見えるため、2枚に圧縮してはどうかとの指

摘があった。

また、「アンケート」(3.2)についても、今回は特段問題なく回答していたが、その反面、評価が伸びていない。その理由としては、導入でアンケートを実施した意図が生徒に十分に伝わっていないためと考えられる。最後のまとめの際に、最初に記入したアンケートの内容と紐付けるようなまとめ方を行うと効果的だと考えられる。

その他の教材については、指導教員から「スライド」、特に人物相関図の有効性が挙げられた。初めての映像では人物の名前や関係性が掴みにくく、さらにその関係性とメールの書き方がリンクしているため、生徒が頭の中を整理する上で非常に有効であった。人物が初めて登場する際にテロップが入るとさらにわかりやすくなるだろうとの意見が聞かれた。

特徴的な成果として、本教材に初めてふれた指導教員から、「通常の授業の中では感想を述べたり、改善点を挙げなさいといった経験はよくあるが、自分だったらどうするか?といったことを考えさせる機会はあまりない。同年代による身近なテーマを取り上げておりリアリティがあるため、自分自身と照らし合わせることができており、しっかりとメール文案を書き込んでいた点は非常によかった。」といった意見が聞かれた。第1回モデル授業と同様、本授業・教材の有用性が確認できた。

(8) 指導教材等完成に向けた主な改善点

①学習指導案への追記

授業の実施スタイルや生徒のレベル、確保できる授業時間等に応じて、ワークシートを選択して利用できるように、指導上・運営上のポイントを追記する。また、最後のまとめの部分を文章で明確に記載する。

②ワークシートの編集

現在3枚で構成しているワークシートのボリュームが1授業時間で実施するには多く見えてしまうため、設問数はそのままだが、ワークシート2と3を圧縮して計2枚に編集する。

③映像の追加編集

各人物が初めて映像に登場する際に名前テロップを入れる。また、映像の最後にまとめの文章を挿入する。

3.4.2. 『「調べ学習」でのネット活用』教材における評価

(1) モデル授業において使用した指導資料等

モデル授業で使用した指導資料等（「①学習指導案」、「②ワークシート」を掲載）は、次のとおりである。

①学習指導案

学習指導案			
流れ	時間	学習活動	指導上、運営上のポイント
導入	10分	【挨拶等】 「調べ学習」でのネット活用について、学習することを知る。	授業者はテーマ（「critical thinking（批判的思考）」、「creativity（創造性・独創性）」、「情報化社会への主体的参加」）を意識する。
		【考えるきっかけを提示】 設問『「もったいない」（例）をテーマに、何かを調べ、それに基づいて自分の意見を発表するとしたら、あなただったら〈何〉を〈どんな方法〉で調べるか、考えてノートに書きなさい。』 挙手→発表	〈何〉の例：「残飯」「資源」「金」「石油」 〈どんな方法〉の例：「図書館」「本屋で購入」「手持ちの本」「インターネットで調べる」「人に直接聞く」「アンケートをとる」「新聞で調べる」「雑誌で調べる」「専門書で調べる」 板書する。
展開1	7分	【実習1】 〈方法〉について ① 本で調べる（新聞・雑誌含む） ② インターネットで調べる ③ 人に聞く ④ 自分で体験する に、集約されそうだが、〈具体的にどうやって調べるか〉をノートに書きなさい。 挙手→発表	〈具体的に〉：「キーワードを入れ、ロボット検索で上位」「ウィキペディア等を見る」「他人のブログを見る」「SNS（mixi など）で聞く」「知恵袋（教えてgoo、発言小町等）などで質問」「文科省、厚生労働省、総務省などのページをたどる」「新聞社、教科書会社、雑誌社のページをたどる」「家族に聞く」「友達に聞く」「先生に聞く」「知らない人に聞く」「メール、手紙で聞く」「直接に会って聞く」など
展開2	10分	【映像視聴】 —中断—	亜衣＝インターネットで調べる人 真由＝本で調べる人 という観点で視聴させる。
		【実習2】 ① ワークシート1の気づいた点を赤ペンでチェックする。	（本の文章）と（ブログ記事）を見比べ、気づいた箇所に赤ペンを入れてチェックし、気づいたことをワークシートに書かせる。
展開3	10分	【映像視聴】最後まで視聴する	
		【実習3と講義】 ① ワークシート2の2の本とインターネットとの〈気をつけたいこと〉は何かを考えて記入する。 ② ワークシート2の3のもし父親だったら、どんなアドバイスをするか、考えて記入する。	本とインターネットの〈気をつけたいこと〉 例：「古い情報ではないか」「間違った情報ではないか」「だまされていないか」「相手の著作権を侵害していないか」「相手の思惑（宗教や販売）に誘導されていないか」「信頼できるソースか」など。〈インターネット検索のポイント〉例：「上位検索以外にも目を向ける」「検索キーワードを工夫する」「公的機関等、信頼性のある情報ソースを参照する」など。
展開4	10分	【実習4と講義】 ① ワークシート3の4の亜衣と真由が工夫したことを考えて記入する。 ② ワークシート3の5に記入する。	〈自分たちの経験を踏まえた主張〉例：「持ち帰りを許可しているお店の人にインタビューした」「職場体験させていただき食べ残される立場の体験をした」「ドギーバッグを自分たちで実際に使ってみた」など。
まとめ	3分	【講義】 ネットにない情報があること、直接体験したり、直接体験した人にインタビューしたりすることの大切さを知らせる。	「critical thinking」で情報を吟味し、自分の体験等を踏まえたcreativityのある題材を使って情報化社会へ主体的参加していくことの大切さを示唆する。

②ワークシート

【ワークシート1】

テーマ：「調べ学習」でのネット活用

年 組 番 氏名 _____

1. 亜衣と真由は本の文章とブログ記事を見比べて、いくつかの点に気がきました。2つを見比べて、あなたが気づいたことを指摘してみましょう。



〈本の文章〉

食品廃棄物の現状

農林水産省の「食品ロス統計調査（平成 15～19 年度）」によると、日本では年間 1,900 万トンの食品廃棄物が排出されている。このうち、食品製造業（食品メーカー）、食品卸売業・小売業（スーパー、百貨店など）、外食産業（レストランなど）といった食品関連事業者からの廃棄物は 800 万トン、一般家庭からの廃棄物は 1,100 万トンである。

一般家庭からの廃棄物が多いのは、調理の際に本来食べられる部分まで捨ててしまったり、食べ残しをしたり、賞味期限切れなどにより食べ物をそのまま捨ててしまったりすることが原因だといわれている。

我々が食品廃棄物を減らすためには、野菜の葉や皮などもできるだけ調理して食べる、食べられる分だけ器によそう、買い物に行く前に冷蔵庫をチェックする、安易にまとめ買いしないなどの工夫が必要であろう。

〈ブログ記事〉

20XX 年 XX 月 XX 日

一般家庭から排出される食品廃棄物は年間 1,900 万トン！

日本では一般家庭から年間 1,900 万トンの食べ物が捨てられているそうだ。

一般家庭からの廃棄物が多いのは、調理の際に本来食べられる部分まで捨ててしまったり、食べ残しをしたり、賞味期限切れなどにより食べ物をそのまま捨ててしまったりすることが原因だと思う。

食品廃棄物を減らすためには、野菜の葉や皮などもできるだけ調理して食べる、食べられる分だけ器によそう、買い物に行く前に冷蔵庫をチェックする、安易にまとめ買いしないなどの工夫が必要だと思う。

〈気づいたこと〉

【ワークシート2】

テーマ：「調べ学習」でのネット活用

年 組 番 氏名 _____

2. 亜衣と真由はインターネットと本を使って調べ学習を行いました。



インターネットと本で調べ学習をするときに、どんなことに気をつけるか、下の表に書き出してみましょう。

	インターネット	本
気をつけること	<ul style="list-style-type: none">・・・	<ul style="list-style-type: none">・・・

3. 亜衣は、一人ではうまくインターネット検索ができなかったので、父親に相談したところ、楽しく感じられるほど、情報検索の腕前が上達しました。



あなたが父親だったら、亜衣に、どんなアドバイスをしますか。あなたの知っているインターネット検索のポイントについて、下の表に書き出してみましょう。

インターネット検索のポイント
<ul style="list-style-type: none">・・・

【ワークシート3】

テーマ：「調べ学習」でのネット活用

年 組 番 氏名 _____

4. 亜衣と真由のレポートは調べ学習コンクールで優秀賞を受賞しました。

ずばり、決め手は何だったと思われますか。
亜衣と真由はどんな工夫をしたのでしょうか。
あなたの意見を記入してみましょう。



5. 本日の授業で学んだことを記入してみましょう。

(2) モデル授業の様子

モデル授業の様子を写真にて紹介する。

<第1回モデル授業>



<第2回モデル授業>



(3) 第1回モデル授業の評価結果

①授業満足度の評価

生徒用アンケート及び教員用アンケートの結果より、授業実施後の「授業満足度」の評価結果は以下の通りである（図表 14）。なお、教員評価結果も参考までに記載する（以下同様）。

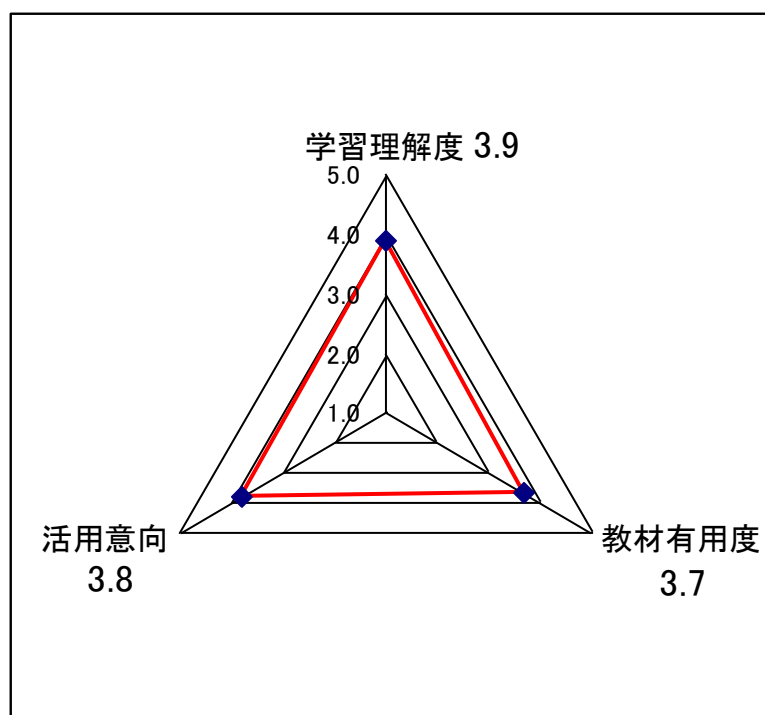
図表 14 「授業満足度」の生徒・教員評価

	授業満足度
生徒 (n=25)	3.8
【参考】教員 (n=1)	4.0

また、「授業満足度」に影響を与える観点である「学習理解度」「教材有用度」「活用意向」の評価結果は以下の通りである（図表 15）。

図表 15 「学習理解度」「教材有用度」「活用意向」の生徒・教員評価

	学習理解度	教材有用度	活用意向
生徒 (n=25)	3.9	3.7	3.8
【参考】教員 (n=1)	3.3	3.5	3.0

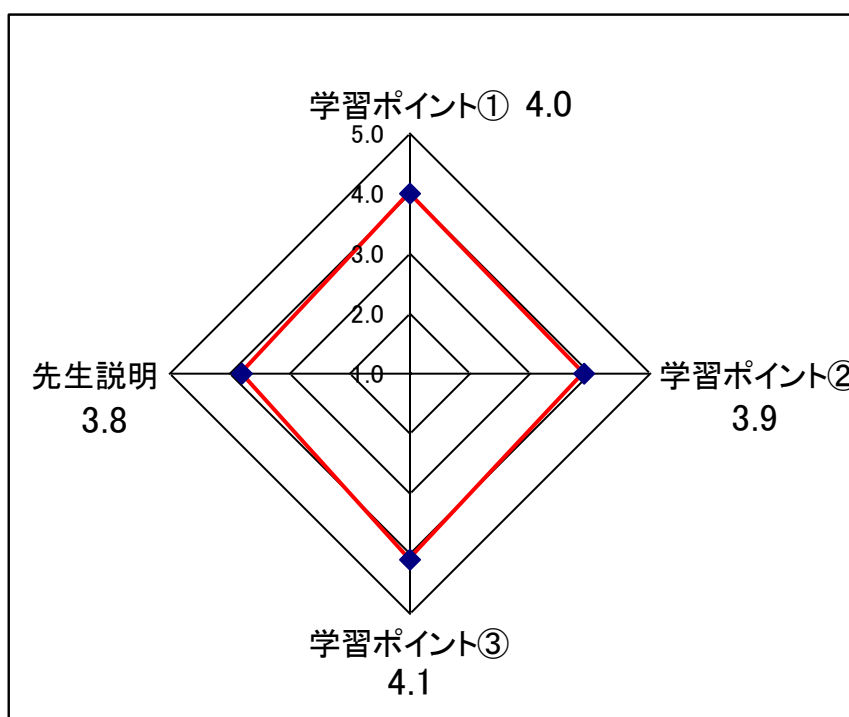


②学習理解度の評価

「学習理解度」を構成する項目である「学習ポイント①」「学習ポイント②」「学習ポイント③」「先生説明」の評価結果は以下の通りである（図表 16）。

図表 16 「学習ポイント①」「学習ポイント②」「学習ポイント③」「先生説明」の生徒・教員評価

	学習ポイント ①	学習ポイント ②	学習ポイント ③	先生説明
生徒 (n=25)	4.0	3.9	4.1	3.8
【参考】教員 (n=1)	4.0	3.0	3.0	3.0

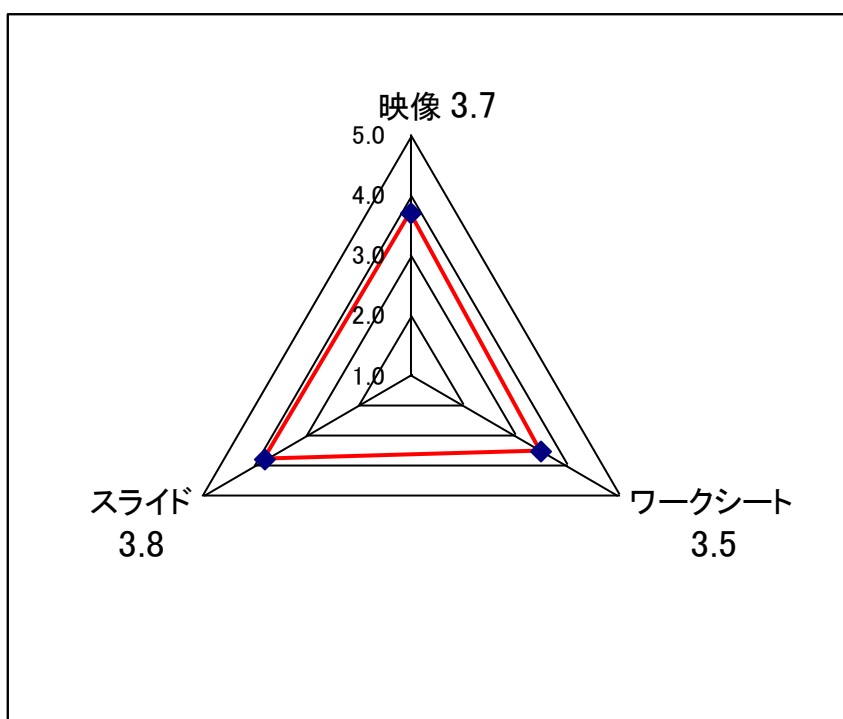


③教材有用度の評価

「教材有用度」を構成する項目である「映像」「ワークシート」「スライド」の評価結果は以下の通りである（図表 17）。

図表 17 「映像」「ワークシート」「スライド」の生徒・教員評価

	映像	ワークシート	スライド
生徒 (n=25)	3.7	3.5	3.8
【参考】教員 (n=1)	3.0	4.0	4.0



(4) 第1回モデル授業に関する考察

生徒アンケートの結果、「授業満足度」(3.8)「学習理解度」(3.9)「教材有用度」(3.7)「活用意向」(3.8)についての評価は概ね良好であった。

ただし、課題点もみつかった。授業時間と指導内容のバランスである。指導教員からは、「中学生だとインターネットのことをあまり知らない生徒もいるため、基本的な情報を理解してもらうために独自に補助的なスライドを作成して本教材と合わせて使用したが、その結果、ワークシートを考えさせる時間を十分に確保することができなかった」との振り返りがあった。「ワークシート」(3.5)の評価もやや低くなっており、生徒からは「時間が少なかった。」といった感想も散見された。

中学生は高校生と比べて知識やリテラシーの個人差があるため、どのレベルに焦点を当てるべきかの判断は難しい。ただし、本事業では、本教材のみで一般的な中学生に授業を実施することを想定しているため、今回は映像教材とワークシートの利用を中心に実施することとした。

特徴的な成果としては、「学習ポイント③：単に調べるだけではなく、自分たちの経験を踏まえた主張も大切であると認識した。」(4.1)の評価が高くなっている。生徒からは「ネットや本で調べるだけではなく、それらを自分の考えで深めていくことが大切だと思った。」といった感想が聞かれた。

また、指導教員からは、「本教材は映像自体の中で大事な部分を敢えて言うておらず、そこを生徒に考えさせるものであるということを改めて認識した。生徒にとって非常に有益な経験ではあるが、慣れない先生方が扱うには少し参考情報などが必要かもしれない。」といった意見が聞かれた。

(5) 第2回モデル授業に向けての改善点

①映像教材とワークシートの利用に特化した授業展開

本教材のみで一般的な中学生に授業を実施することを想定しているため、独自の補助教材等は利用せず、映像教材とワークシートの利用に特化した授業展開を行う。このことで、評価がどのように変化するかを確認する。

(6) 第2回モデル授業の評価結果

①授業満足度の評価

生徒用アンケート及び教員用アンケートの結果より、授業実施後の「授業満足度」の評価結果は以下の通りである（図表 18）。なお、教員評価結果も参考までに記載する（以下同様）。

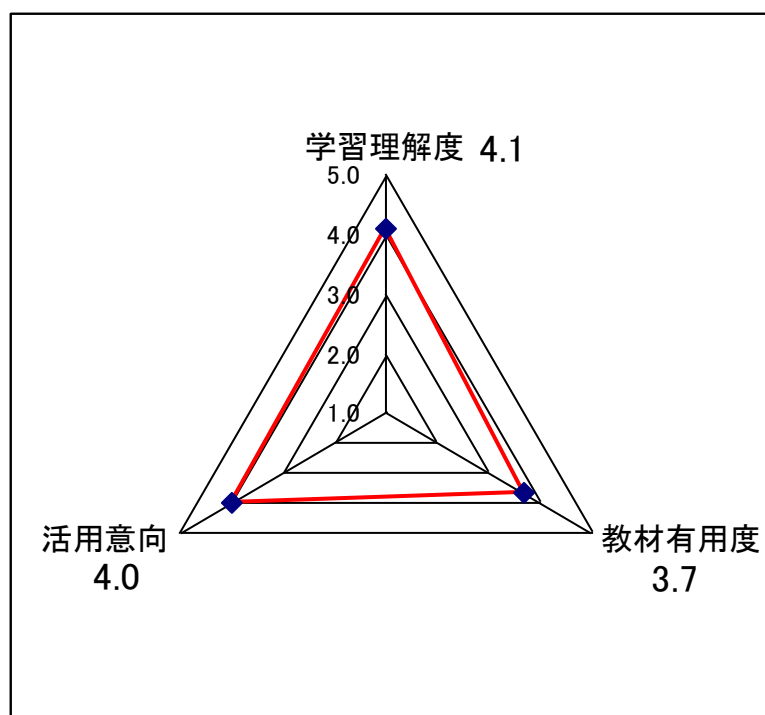
図表 18 「授業満足度」の生徒・教員評価

	授業満足度
生徒 (n=39)	3.8
【参考】教員 (n=1)	3.0

また、「授業満足度」に影響を与える観点である「学習理解度」「教材有用度」「活用意向」の評価結果は以下の通りである（図表 19）。

図表 19 「学習理解度」「教材有用度」「活用意向」の生徒・教員評価

	学習理解度	教材有用度	活用意向
生徒 (n=39)	4.1	3.7	4.0
【参考】教員 (n=1)	3.5	3.5	4.0

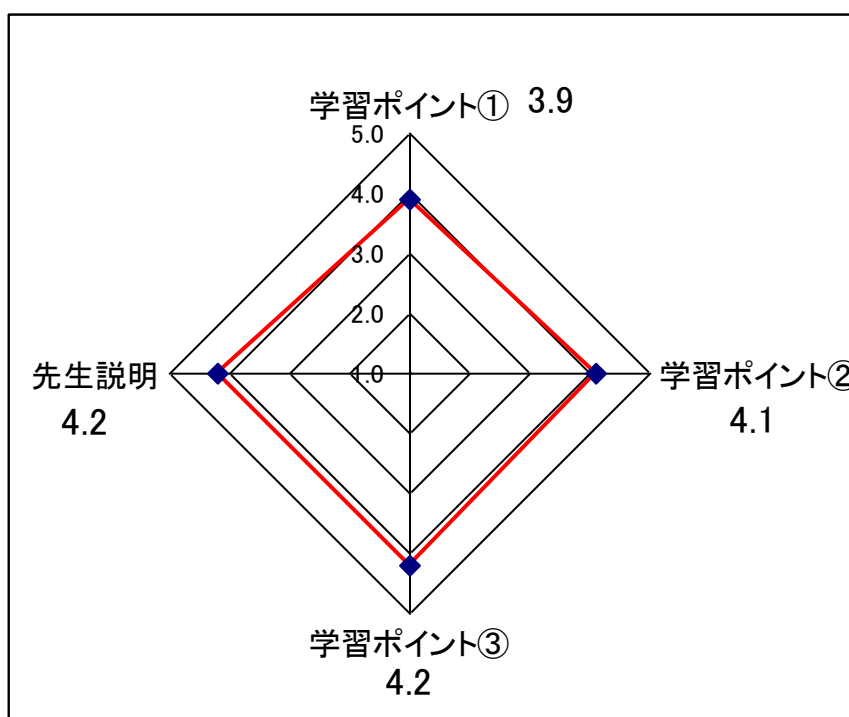


②学習理解度の評価

「学習理解度」を構成する項目である「学習ポイント①」「学習ポイント②」「学習ポイント③」「先生説明」の評価結果は以下の通りである（図表 20）。

図表 20 「学習ポイント①」「学習ポイント②」「学習ポイント③」「先生説明」の生徒・教員評価

	学習ポイント ①	学習ポイント ②	学習ポイント ③	先生説明
生徒 (n=39)	3.9	4.1	4.2	4.2
【参考】教員 (n=1)	4.0	4.0	3.0	3.0

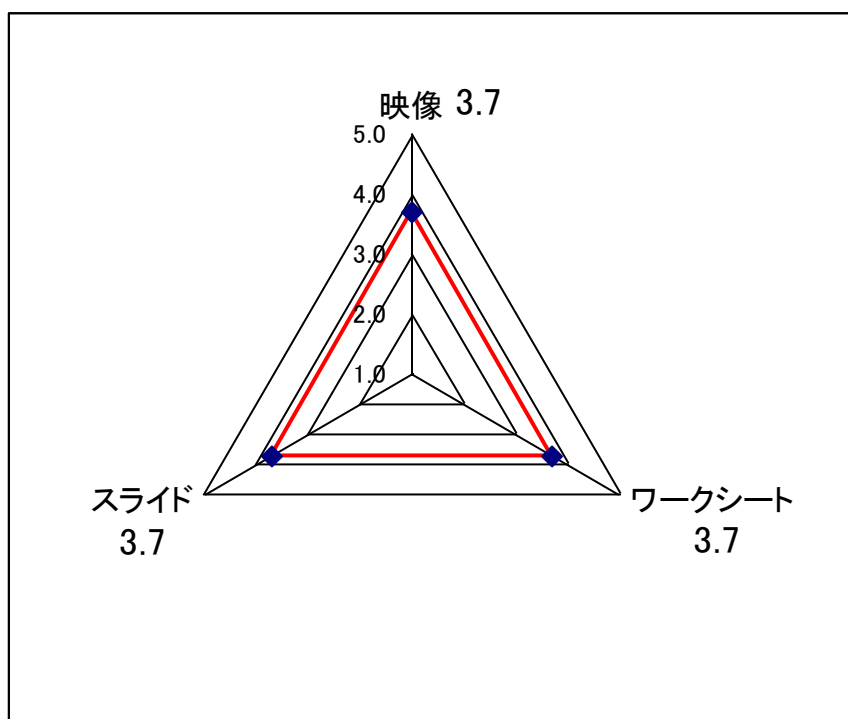


③教材有用度の評価

「教材有用度」を構成する項目である「映像」「ワークシート」「スライド」の評価結果は以下の通りである（図表 21）。

図表 21 「映像」「ワークシート」「スライド」の生徒・教員評価

	映像	ワークシート	スライド
生徒 (n=39)	3.7	3.7	3.7
【参考】教員 (n=1)	4.0	4.0	3.0



(7) 第2回モデル授業に関する考察

生徒アンケートの結果、「授業満足度」(3.8)と「教材有用度」(3.7)の評価は第1回モデル授業と同じであったが、「学習理解度」(4.1)「活用意向」(4.0)についての評価は向上した。

映像教材とワークシートの利用に特化した授業展開を行った結果、「ワークシート」(3.7)の評価もやや向上している。生徒からは時間が少なかったといった感想は聞かれなかったが、指導教員からは、「1 授業時間で指導する内容としては少し多い感がある。ただし、映像を主体とした教材なので、生徒もすぐに入り込むことができるため、現状でも実施は特に問題ない。」との意見が聞かれた。本教材のみで一般的な中学生に授業を実施できることが確認できた。

一方で、やはり授業の実施スタイルや生徒のレベル、確保できる授業時間等によっては補助的な情報提供も必要なケースが想定されるため、学習指導案にインターネット等の基本情報を指導する際のポイント等を追記する。

(8) 指導教材等完成に向けた主な改善点

①学習指導案への追記

授業の実施スタイルや生徒のレベル、確保できる授業時間等に応じて、インターネット等の基本情報も指導できるように、指導上・運営上のポイントを追記する。

3.5. 【参考】 アンケート集計結果

3.5.1. 『TPOに応じたメールマナー』教材における集計結果

(1) 第1回モデル授業

①授業実施前アンケート（生徒）

1. 普段、何を使ってメールをしていますか。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	携帯とパソコン両方	8	21.1%
2	主に携帯	28	73.7%
3	主にパソコン	0	0.0%
4	メールをしない	2	5.3%

2. 平均して1日(平日)どれくらいの時間メールをしていますか。

		回答数	%
全 体 (N)		36	100.0
1	30分以内	10	27.8%
2	1時間以内	9	25.0%
3	2時間以内	6	16.7%
4	それ以上	11	30.6%

3. メールによるコミュニケーションで失敗したことや困った経験はありますか。

		回答数	%
全 体 (N)		36	100.0
1	はい	11	30.6%
2	いいえ	25	69.4%

4. 身近な人(友人・家族など)とのメールによるコミュニケーションは適切に対応できていると思いますか。

		回答数	%
全 体 (N)		36	100.0
1	とてもそう思う	6	16.7%
2	そう思う	16	44.4%
3	どちらともいえない	14	38.9%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

5. 相手や状況に応じて、メールの内容や表現を使い分けられていると思いますか。

		回答数	%
全 体 (N)		36	100.0
1	とてもそう思う	11	30.6%
2	そう思う	18	50.0%
3	どちらともいえない	7	19.4%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

6. 状況に応じて、コミュニケーション手段(メール、電話、直接話す等)を使い分けられていると思いますか。

		回答数	%
全 体 (N)		36	100.0
1	とてもそう思う	13	36.1%
2	そう思う	17	47.2%
3	どちらともいえない	6	16.7%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

②授業実施後アンケート (生徒)

1. この授業を受けてよかった。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	とてもそう思う	9	23.7%
2	そう思う	21	55.3%
3	どちらともいえない	6	15.8%
4	そう思わない	2	5.3%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

2. メールによるコミュニケーションの特徴や留意点などの理解が深まった。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	とてもそう思う	14	36.8%
2	そう思う	18	47.4%
3	どちらともいえない	4	10.5%
4	そう思わない	1	2.6%
5	まったくそう思わない	1	2.6%

3. 状況に応じたコミュニケーション手段(メール、電話、直接話すなど)の使い分けの必要性を意識した。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	とてもそう思う	18	47.4%
2	そう思う	17	44.7%
3	どちらともいえない	1	2.6%
4	そう思わない	1	2.6%
5	まったくそう思わない	1	2.6%

4. 社会に出た際に求められるメールマナーの必要性を意識した。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	とてもそう思う	17	44.7%
2	そう思う	18	47.4%
3	どちらともいえない	1	2.6%
4	そう思わない	2	5.3%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

5. 先生の説明はわかりやすかった。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	とてもそう思う	11	28.9%
2	そう思う	22	57.9%
3	どちらともいえない	3	7.9%
4	そう思わない	1	2.6%
5	まったくそう思わない	1	2.6%

6. ビデオ映像は学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	とてもそう思う	13	34.2%
2	そう思う	15	39.5%
3	どちらともいえない	8	21.1%
4	そう思わない	2	5.3%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

7. ワークシートは学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	とてもそう思う	7	18.4%
2	そう思う	20	52.6%
3	どちらともいえない	8	21.1%
4	そう思わない	2	5.3%
5	まったくそう思わない	1	2.6%

8. 掲示された資料(スライド等)が学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	とてもそう思う	9	23.7%
2	そう思う	19	50.0%
3	どちらともいえない	7	18.4%
4	そう思わない	2	5.3%
5	まったくそう思わない	1	2.6%

9. 最初のアンケートは学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	とてもそう思う	4	10.5%
2	そう思う	9	23.7%
3	どちらともいえない	20	52.6%
4	そう思わない	3	7.9%
5	まったくそう思わない	2	5.3%

10. この授業で学んだことを今後活かしていきたい。

		回答数	%
全 体 (N)		38	100.0
1	とてもそう思う	14	36.8%
2	そう思う	20	52.6%
3	どちらともいえない	2	5.3%
4	そう思わない	1	2.6%
5	まったくそう思わない	1	2.6%

(2) 第2回モデル授業

①授業実施前アンケート（生徒）

1. 普段、何を使ってメールをしていますか。

		回答数	%
全 体 (N)		39	100.0
1	携帯とパソコン両方	2	5.1%
2	主に携帯	35	89.7%
3	主にパソコン	0	0.0%
4	メールをしない	2	5.1%

2. 平均して1日(平日)にどれくらいの頻度でメールのやりとりをしていますか。

		回答数	%
全 体 (N)		37	100.0
1	1日に数十件程度	7	18.9%
2	1日に数件程度	14	37.8%
3	1日にしないこともある	16	43.2%

3. メールによるコミュニケーションで失敗したことや困った経験はありますか。

		回答数	%
全 体 (N)		37	100.0
1	はい	9	24.3%
2	いいえ	28	75.7%

4. 身近な人(友人・家族など)とのメールによるコミュニケーションは適切に対応できていると思いますか。

		回答数	%
全 体 (N)		37	100.0
1	とてもそう思う	5	13.5%
2	そう思う	27	73.0%
3	どちらともいえない	5	13.5%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

5. 相手や状況に応じて、メールの内容や表現を使い分けることができていると思いますか。

		回答数	%
全 体 (N)		37	100.0
1	とてもそう思う	6	16.2%
2	そう思う	27	73.0%
3	どちらともいえない	4	10.8%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

6. 状況に応じて、コミュニケーション手段(メール、電話、直接話す等)を使い分けることができていると思いますか。

		回答数	%
全 体 (N)		37	100.0
1	とてもそう思う	8	21.6%
2	そう思う	23	62.2%
3	どちらともいえない	6	16.2%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

②授業実施後アンケート (生徒)

1. この授業を受けてよかった。

		回答数	%
全 体 (N)		40	100.0
1	とてもそう思う	5	12.5%
2	そう思う	32	80.0%
3	どちらともいえない	3	7.5%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

2. メールによるコミュニケーションの特徴や留意点などの理解が深まった。

		回答数	%
全 体 (N)		40	100.0
1	とてもそう思う	5	12.5%
2	そう思う	33	82.5%
3	どちらともいえない	2	5.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

3. 状況に応じたコミュニケーション手段(メール、電話、直接話すなど)の使い分けの必要性を意識した。

		回答数	%
全 体 (N)		40	100.0
1	とてもそう思う	12	30.0%
2	そう思う	27	67.5%
3	どちらともいえない	0	0.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	1	2.5%

4. 社会に出た際に求められるメールマナーの必要性を意識した。

		回答数	%
全 体 (N)		40	100.0
1	とてもそう思う	15	37.5%
2	そう思う	22	55.0%
3	どちらともいえない	3	7.5%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

5. 先生の説明はわかりやすかった。

		回答数	%
全 体 (N)		40	100.0
1	とてもそう思う	7	17.5%
2	そう思う	28	70.0%
3	どちらともいえない	3	7.5%
4	そう思わない	1	2.5%
5	まったくそう思わない	1	2.5%

6. ビデオ映像は学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		40	100.0
1	とてもそう思う	9	22.5%
2	そう思う	26	65.0%
3	どちらともいえない	4	10.0%
4	そう思わない	1	2.5%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

7. ワークシートは学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		40	100.0
1	とてもそう思う	4	10.0%
2	そう思う	17	42.5%
3	どちらともいえない	15	37.5%
4	そう思わない	4	10.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

8. 掲示された資料(スライド等)が学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		40	100.0
1	とてもそう思う	11	27.5%
2	そう思う	15	37.5%
3	どちらともいえない	12	30.0%
4	そう思わない	2	5.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

9. 最初のアンケートは学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		40	100.0
1	とてもそう思う	3	7.5%
2	そう思う	9	22.5%
3	どちらともいえない	20	50.0%
4	そう思わない	7	17.5%
5	まったくそう思わない	1	2.5%

10. この授業で学んだことを今後活かしていきたい。

		回答数	%
全 体 (N)		40	100.0
1	とてもそう思う	13	32.5%
2	そう思う	26	65.0%
3	どちらともいえない	1	2.5%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

3.5.2. 『調べ学習』でのネット活用』教材における集計結果

(1) 第1回モデル授業

①授業実施後アンケート（生徒）

1. この授業を受けてよかった。

		回答数	%
全 体 (N)		25	100.0
1	とてもそう思う	3	12.0%
2	そう思う	15	60.0%
3	どちらともいえない	7	28.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

2. インターネット検索のポイントや気をつけること等の理解が深まった。

		回答数	%
全 体 (N)		25	100.0
1	とてもそう思う	4	16.0%
2	そう思う	16	64.0%
3	どちらともいえない	5	20.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

3. 内容や状況に応じた調べ方（本、インターネット、インタビュー等）の使い分けの必要性を意識した。

		回答数	%
全 体 (N)		25	100.0
1	とてもそう思う	4	16.0%
2	そう思う	15	60.0%
3	どちらともいえない	6	24.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

4. 単に調べるだけではなく、自分たちの経験を踏まえた主張も大切であると意識した。

		回答数	%
全 体 (N)		25	100.0
1	とてもそう思う	6	24.0%
2	そう思う	15	60.0%
3	どちらともいえない	4	16.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

5. 先生の説明はわかりやすかった。

		回答数	%
全 体 (N)		25	100.0
1	とてもそう思う	2	8.0%
2	そう思う	17	68.0%
3	どちらともいえない	5	20.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	1	4.0%

6. ビデオ映像は学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		25	100.0
1	とてもそう思う	4	16.0%
2	そう思う	10	40.0%
3	どちらともいえない	10	40.0%
4	そう思わない	1	4.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

7. ワークシートは学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		25	100.0
1	とてもそう思う	2	8.0%
2	そう思う	12	48.0%
3	どちらともいえない	9	36.0%
4	そう思わない	1	4.0%
5	まったくそう思わない	1	4.0%

8. 掲示された資料(スライド等)が学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		25	100.0
1	とてもそう思う	4	16.0%
2	そう思う	13	52.0%
3	どちらともいえない	7	28.0%
4	そう思わない	1	4.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

9. この授業で学んだことを今後活かしていきたい。

		回答数	%
全 体 (N)		25	100.0
1	とても思う	3	12.0%
2	そう思う	15	60.0%
3	どちらともいえない	6	24.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったく思わない	1	4.0%

(2) 第2回モデル授業

①授業実施後アンケート (生徒)

1. この授業を受けてよかった。

		回答数	%
全 体 (N)		39	100.0
1	とても思う	9	23.1%
2	そう思う	18	46.2%
3	どちらともいえない	9	23.1%
4	そう思わない	1	2.6%
5	まったく思わない	2	5.1%

2. インターネット検索のポイントや気をつけること等の理解が深まった。

		回答数	%
全 体 (N)		39	100.0
1	とても思う	9	23.1%
2	そう思う	19	48.7%
3	どちらともいえない	9	23.1%
4	そう思わない	1	2.6%
5	まったく思わない	1	2.6%

3. 内容や状況に応じた調べ方(本、インターネット、インタビュー等)の使い分けの必要性を意識した。

		回答数	%
全 体 (N)		39	100.0
1	とても思う	10	25.6%
2	そう思う	24	61.5%
3	どちらともいえない	3	7.7%
4	そう思わない	2	5.1%
5	まったく思わない	0	0.0%

4. 単に調べるだけではなく、自分たちの経験を踏まえた主張も大切であると意識した。

		回答数	%
全 体 (N)		39	100.0
1	とてもそう思う	13	33.3%
2	そう思う	21	53.8%
3	どちらともいえない	5	12.8%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

5. 先生の説明はわかりやすかった。

		回答数	%
全 体 (N)		39	100.0
1	とてもそう思う	11	28.2%
2	そう思う	23	59.0%
3	どちらともいえない	5	12.8%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったくそう思わない	0	0.0%

6. ビデオ映像は学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		39	100.0
1	とてもそう思う	9	23.1%
2	そう思う	13	33.3%
3	どちらともいえない	14	35.9%
4	そう思わない	2	5.1%
5	まったくそう思わない	1	2.6%

7. ワークシートは学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		39	100.0
1	とてもそう思う	7	17.9%
2	そう思う	17	43.6%
3	どちらともいえない	11	28.2%
4	そう思わない	3	7.7%
5	まったくそう思わない	1	2.6%

8. 掲示された資料(スライド等)が学習に役立った。

		回答数	%
全 体 (N)		39	100.0
1	とても思う	5	12.8%
2	そう思う	19	48.7%
3	どちらともいえない	13	33.3%
4	そう思わない	1	2.6%
5	まったく思わない	1	2.6%

9. この授業で学んだことを今後活かしていきたい。

		回答数	%
全 体 (N)		39	100.0
1	とても思う	13	33.3%
2	そう思う	20	51.3%
3	どちらともいえない	3	7.7%
4	そう思わない	0	0.0%
5	まったく思わない	3	7.7%

3.5.3. アンケート調査票

モデル授業の評価で使用したアンケート調査票は、次のとおりである。

<p>【TPOに応じたメールマナー】</p> <p>授業実施前アンケート（生徒）</p> <p>年 組 番 名前 _____</p> <p>以下の質問について、（ ）内に○もしくは該当する内容を記入して下さい。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"><p>1. 普段、何を使ってメールをしていますか。</p><p>（ ）携帯とパソコン両方</p><p>（ ）主に携帯</p><p>（ ）主にパソコン</p><p>（ ）メールをしない</p><p>2. 平均して1日（平日）どれくらいの時間メールをしていますか。</p><p>（ ）時間（ ）分</p><p>3. メールによるコミュニケーションで失敗したことや困った経験はありますか。</p><p>（ ）はい （内容： _____）</p><p>（ ）いいえ</p><p>4. 身近な人（友人・家族など）とのメールによるコミュニケーションは適切に対応できていると思いますか。</p><p>（ ）とてもそう思う</p><p>（ ）そう思う</p><p>（ ）どちらともいえない</p><p>（ ）そう思わない</p><p>（ ）まったくそう思わない</p><p>5. 相手や状況に応じて、メールの内容や表現を使い分けることができていると思いますか。</p><p>（ ）とてもそう思う</p><p>（ ）そう思う</p><p>（ ）どちらともいえない</p><p>（ ）そう思わない</p><p>（ ）まったくそう思わない</p><p>6. 状況に応じて、コミュニケーション手段（メール、電話、直接話す等）を使い分けることができていると思いますか。</p><p>（ ）とてもそう思う</p><p>（ ）そう思う</p><p>（ ）どちらともいえない</p><p>（ ）そう思わない</p><p>（ ）まったくそう思わない</p></div>

【TP0 に応じたメールマナー】

授業実施後アンケート（生徒）

年 組 番 名前 _____

1. 以下の質問について、当てはまる回答に○をつけてください。

1	この授業を受けてよかった。	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう 思う	とても そう 思う
2	メールによるコミュニケーションの特徴や留意点などの理解が深まった。	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう 思う	とても そう 思う
3	状況に応じたコミュニケーション手段（メール、電話、直接話すなど）の使い分けの必要性を意識した。	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう 思う	とても そう 思う
4	社会に出た際に求められるメールマナーの必要性を意識した。	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう 思う	とても そう 思う
5	先生の説明はわかりやすかった。	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう 思う	とても そう 思う
6	ビデオ映像は学習に役立った。	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう 思う	とても そう 思う
7	ワークシートは学習に役立った。	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう 思う	とても そう 思う
8	提示された資料（スライド等）は学習に役立った。	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう 思う	とても そう 思う
9	最初のアンケートは学習に役立った。	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう 思う	とても そう 思う
10	この授業で学んだことを今後活かしていきたい。	まったく そう 思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう 思う	とても そう 思う

2. 本日の授業を受けた感想として、「特に関心を持ったこと」や、「教材（ビデオ・ワークシート・スライド）の分かりにくかったところ」などがあれば、自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

【TPOに応じたメールマナー】

授業実施後アンケート（教員）

（学校名）

（氏名）

1. 以下の質問について、当てはまる回答に○をつけてください。

1	指導する立場として、この授業全般に満足した。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
2	授業を実施する前に設定した学習目標を達成できた。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
3	生徒がメールによるコミュニケーションの特徴や留意点などの理解を深めるのに役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
4	生徒が状況に応じたコミュニケーション手段の使い分けの必要性を意識することに役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
5	生徒が社会に出た際に求められるメールマナーの必要性を意識することに役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
6	生徒に向けてわかりやすく説明できた。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
7	時間（1コマ50分）と指導内容のバランスは適切だった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
8	ビデオ映像は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
9	ワークシートは指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
10	スライド資料は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
11	生徒向け事前アンケートは指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
12	シナリオ（絵コンテ）は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う
13	この授業を今後も継続して実施していきたい。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても 思う

2. 本日の授業を実施したご感想をお聞かせ下さい。（特に、「他の人にお勧めできる点」、「教材の改善点」等）

ご協力ありがとうございました。

【「調べ学習」でのネット活用】

授業実施後アンケート（生徒）

年 組 番 名前 _____

1. 以下の質問について、当てはまる回答に○をつけてください。

1	この授業を受けてよかった。	まったく そうでもない	そう 変わらない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
2	インターネット検索のポイントや気をつけること等の理解が深まった。	まったく そうでもない	そう 変わらない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
3	内容や状況に応じた調べ方（本、インターネット、インタビュー等）の使い分けの必要性を意識した。	まったく そうでもない	そう 変わらない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
4	単に調べるだけでなく、自分たちの経験を踏まえた主張も大切であると意識した。	まったく そうでもない	そう 変わらない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
5	先生の説明はわかりやすかった。	まったく そうでもない	そう 変わらない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
6	ビデオ映像は学習に役立った。	まったく そうでもない	そう 変わらない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
7	ワークシートは学習に役立った。	まったく そうでもない	そう 変わらない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
8	提示された資料（スライド等）は学習に役立った。	まったく そうでもない	そう 変わらない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
9	この授業で学んだことを今後活かしていきたい。	まったく そうでもない	そう 変わらない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う

2. 本日の授業を受けた感想として、「特に興味を持ったこと」や、「教材（ビデオ・ワークシート・スライド）の分かりにくかったところ」などがあれば、自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

【「調べ学習」でのネット活用】

授業実施後アンケート（教員）

（学校名）

（氏名）

1. 以下の質問について、当てはまる回答に○をつけてください。

1	指導する立場として、この授業全般に満足した。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
2	授業を実施する前に設定した学習目標を達成できた。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
3	生徒がインターネット検索のポイントや気をつけること等の理解を深めるのに役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
4	生徒が内容や状況に応じた調べ方(本/ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ/ｲﾝﾌｫﾐｼﾞｮﾝ)の使い分けの必要性を意識することに役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
5	生徒が単に調べるだけでなく、自分たちの経験を踏まえた主張も大切であると意識することに役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
6	生徒に向けてわかりやすく説明できた。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
7	時間（1コマ50分）と指導内容のバランスは適切だった。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
8	ビデオ映像は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
9	ワークシートは指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
10	スライド資料は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
11	シナリオ（絵コンテ）は指導に役立った。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う
12	この授業を今後も継続して実施していきたい。	まったく そう思わない	そう 思わない	どちらとも いえない	そう思う	とても そう思う

2. 本日の授業を実施したご感想をお聞かせ下さい。（特に、「他の人にお勧めできる点」、「教材の改善点」等）

ご協力ありがとうございました。

4. 保護者 Web アンケートの実施による指導資料等の有用性の検証

4.1. 保護者 Web アンケートの目的

保護者 Web アンケートの目的は、ICT メディアが家庭生活の中でも使用されていることを鑑み、作成した指導資料等を中学生と高校生の子供がいる保護者に実際に利用してもらうことで、家庭の中で保護者と子供と一緒に学べる有用な教材となっているか検証することである。

4.2. 保護者 Web アンケートの実施概要

本アンケート調査の実施概要は、以下の通りである（図表 22）。

図表 22 Web アンケート調査実施概要

<p>◆調査実施期間 2010年3月11日（金）～3月15日（火）の5日間。</p>
<p>◆調査対象 全国の中学生と高校生の子供がいる保護者（200名回収）。</p>
<p>◆調査方法 調査対象に該当する Web アンケート調査会社のモニターが、『TPO に応じたメールマナー』と『調べ学習』でのネット活用』の2つの映像教材とワークシートを見た上で、10問の設問に回答する。</p>
<p>◆調査項目 「教材活用意向」（本教材を子供に見せたいと思うか）と「教材有用度」（本教材の定めている学習ポイントが子供に役立ちそうか）の2つの観点から調査項目を設定する。 なお、各項目は、「とても思う」「そう思う」「どちらともいえない」「そう思わない」「まったくそう思わない」の5段階で評価する。</p>

4.3. 保護者 Web アンケートの調査結果

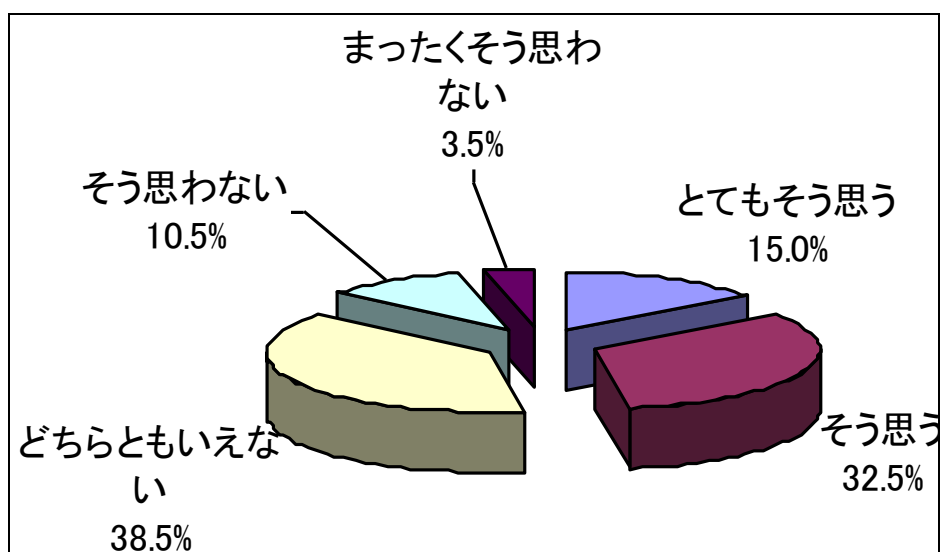
4.3.1. 『TPOに応じたメールマナー』教材における調査結果

(1) 教材活用意向

「本教材（特に映像）を子供に見せたいと思うか」という設問に対して、「とても思う」と「思う」の合計は47.5%であった（図表 23）。

図表 23 教材活用意向

全 体 (N)		回答数	%
1	とても思う	30	15.0
2	思う	65	32.5
3	どちらともいえない	77	38.5
4	そう思わない	21	10.5
5	まったくそう思わない	7	3.5

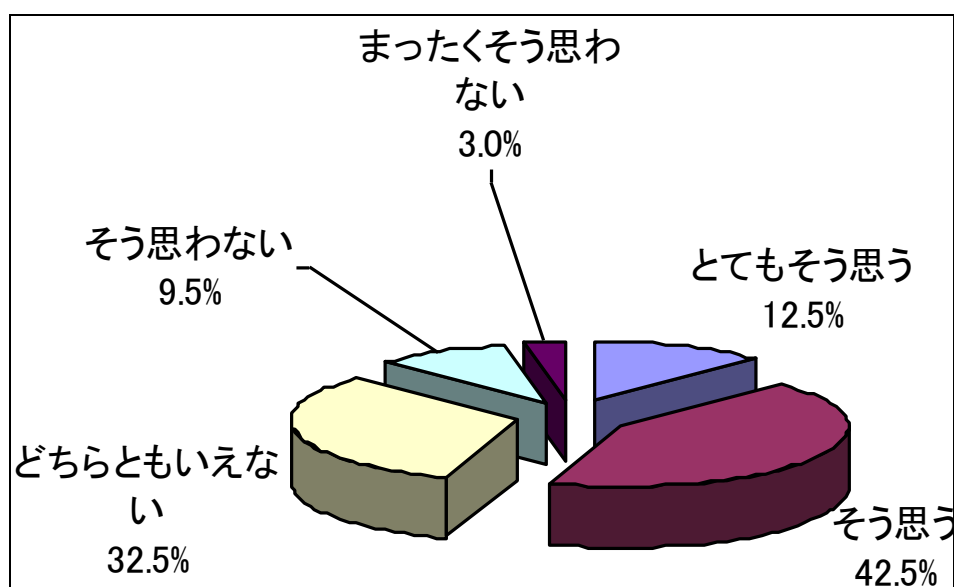


(2) 教材有用度①

「本教材は子供がメールによるコミュニケーションの特徴や留意点等の理解を深めることに役立ちそうか」という設問に対して、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計は55.0%であった（図表 24）。

図表 24 教材有用度①

全 体 (N)		回答数	%
1	とてもそう思う	25	12.5
2	そう思う	85	42.5
3	どちらともいえない	65	32.5
4	そう思わない	19	9.5
5	まったくそう思わない	6	3.0

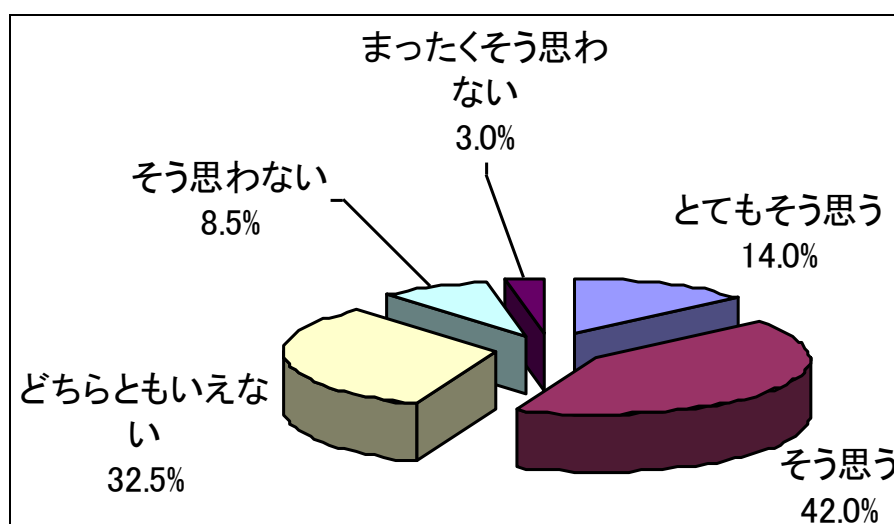


(3) 教材有用度②

「本教材は子供が状況に応じたコミュニケーション手段の使い分けの必要性を意識することに役立ちそうか」という設問に対して、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計は 56.0% であった（図表 25）。

図表 25 教材有用度②

全 体 (N)		回答数	%
1	とてもそう思う	28	14.0
2	そう思う	84	42.0
3	どちらともいえない	65	32.5
4	そう思わない	17	8.5
5	まったくそう思わない	6	3.0

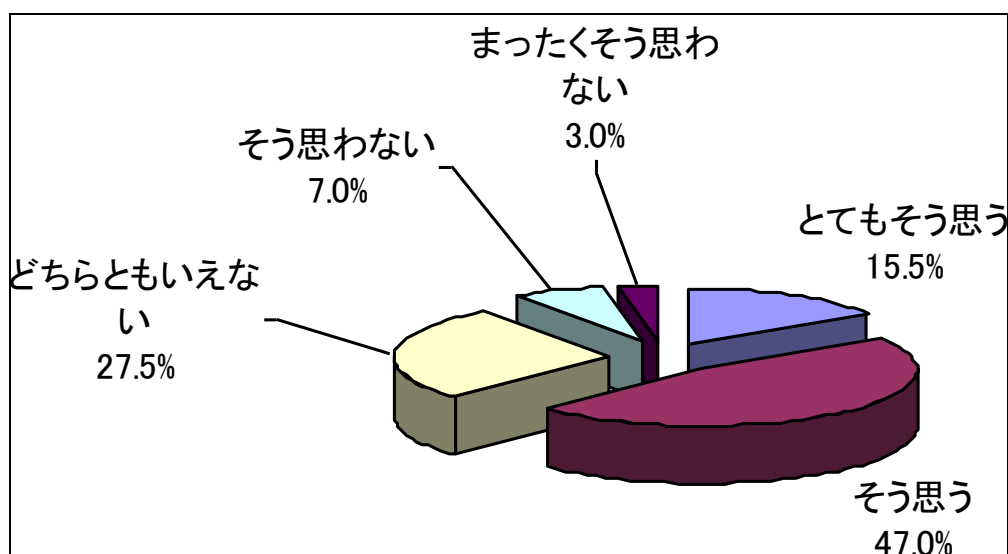


(4) 教材有用度③

「本教材は子供が社会に出た際に求められるメールマナーの必要性を意識すること」に役立つだろうか」という設問に対して、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計は62.5%であった（図表 26）。

図表 26 教材有用度③

全 体 (N)		回答数	%
1	とてもそう思う	31	15.5
2	そう思う	94	47.0
3	どちらともいえない	55	27.5
4	そう思わない	14	7.0
5	まったくそう思わない	6	3.0



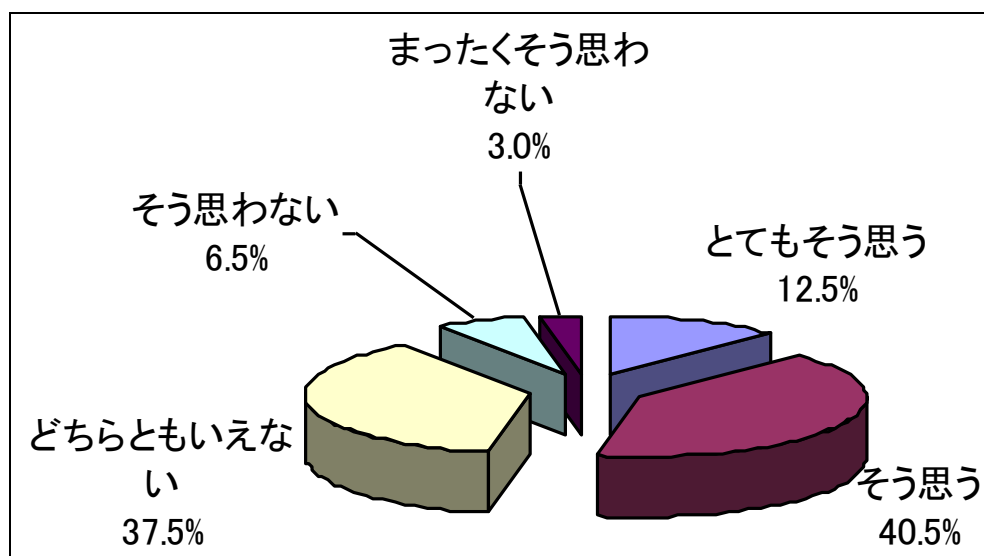
4.3.2. 『「調べ学習」でのネット活用』教材における調査結果

(1) 教材活用意向

「本教材（特に映像）を子供に見せたいと思うか」という設問に対して、「とても思う」と「そう思う」の合計は53.0%であった（図表 27）。

図表 27 教材活用意向

全 体 (N)		回答数	%
1	とても思う	25	12.5
2	そう思う	81	40.5
3	どちらともいえない	75	37.5
4	そう思わない	13	6.5
5	まったく思わない	6	3.0

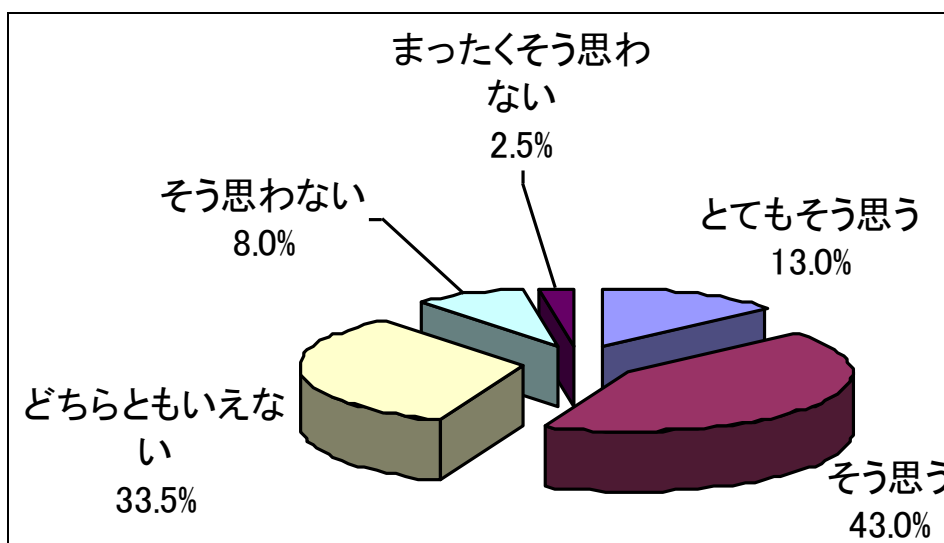


(2) 教材有用度①

「本教材は子供がインターネット検索のポイントや気をつけること等の理解を深めることに役立ちそうか」という設問に対して、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計は56.0%であった（図表 28）。

図表 28 教材有用度①

全 体 (N)		回答数	%
1	とてもそう思う	26	13.0
2	そう思う	86	43.0
3	どちらともいえない	67	33.5
4	そう思わない	16	8.0
5	まったくそう思わない	5	2.5

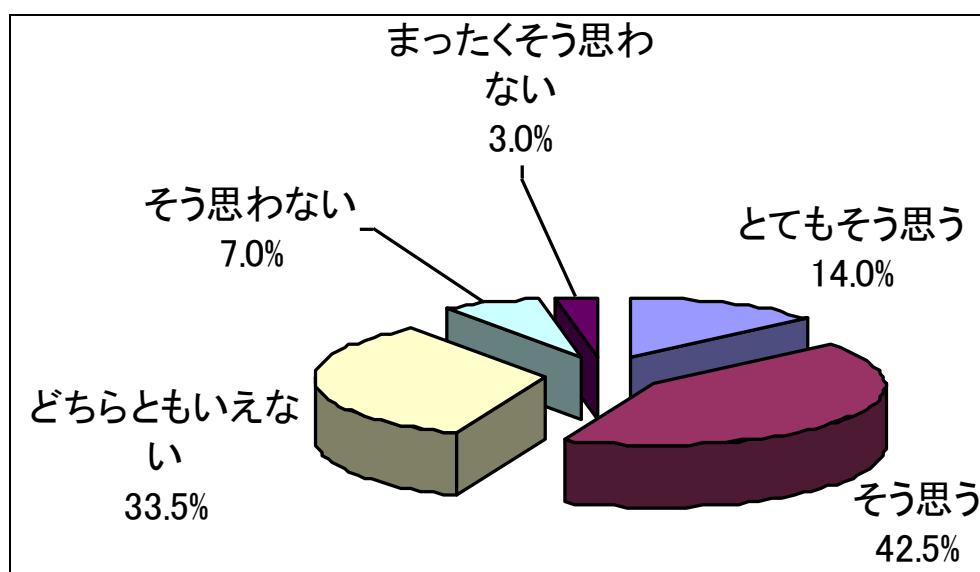


(3) 教材有用度②

「本教材は子供が内容や状況に応じた情報の調べ方（本、インターネット、インタビュー等）の使い分けの必要性を意識することに役立ちそうか」という設問に対して、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計は56.5%であった（図表 29）。

図表 29 教材有用度②

全 体 (N)		回答数	%
1	とてもそう思う	28	14.0
2	そう思う	85	42.5
3	どちらともいえない	67	33.5
4	そう思わない	14	7.0
5	まったくそう思わない	6	3.0

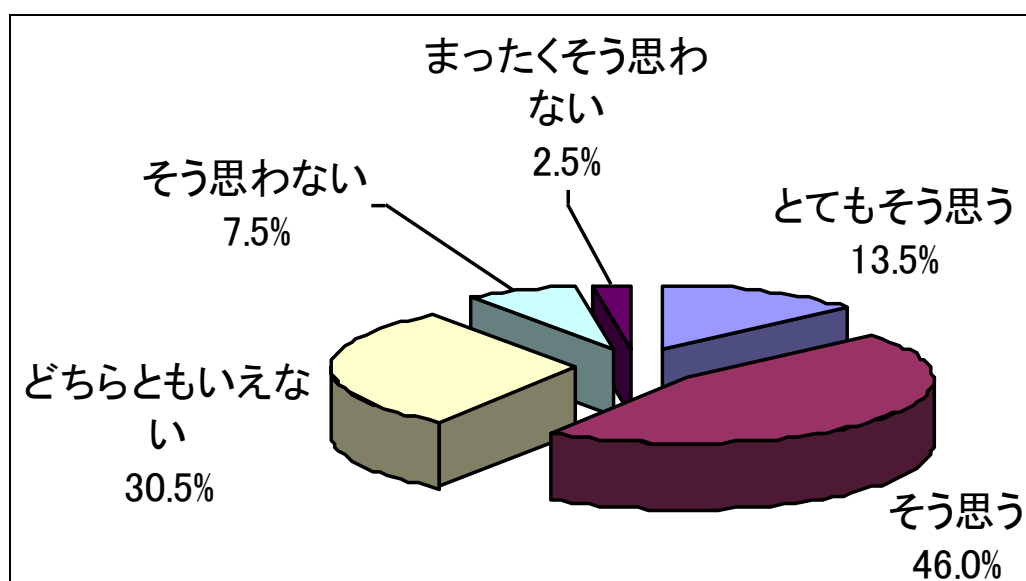


(4) 教材有用度③

「本教材は子供が単に情報を調べるだけではなく、自分たちの経験を踏まえた主張も大切であると意識することに役立ちそうか」という設問に対して、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計は59.5%であった（図表 30）。

図表 30 教材有用度③

全 体 (N)		回答数	%
1	とてもそう思う	27	13.5
2	そう思う	92	46.0
3	どちらともいえない	61	30.5
4	そう思わない	15	7.5
5	まったくそう思わない	5	2.5



4.3.3. 自由回答（一部抜粋）

(1) 『TPO に応じたメールマナー』について

①良かった点

- ・ メールに関するマナーが分かりやすくまとめられていて有益だと思った。
- ・ メールの駄目な例と見本例があったのでわかりやすかった。
- ・ 相手の立場になって考えることを知ることは良かった。
- ・ 普段何気なく使っているメールも、必要に応じてマナーが必要だと子供に自然と伝わると思う。
- ・ 友達と先輩の区別をきちんと考えて、手紙とまでいわないまでもマナーをもったメール言葉を認識できて良い。
- ・ メールに関しては、子供たちは正しい伝え方などを学ばず、自分のやり方でやっている。TPO を考慮したメールが学べてよいと思う。
- ・ 誰に対してもしっかりと要点をまとめて相手に伝えるという目的をキッチリ果たせる表現方法等を身につけて欲しいので、大変よい教材だと思う。
- ・ メールの発達、普及によって上下関係の礼節が崩れていきつつあるが、今一度考えるよい機会になる映像だった。
- ・ メールマナーだけでなく普段からの目上の人に対しての接し方にも参考になるところが多かった。このようにメールでも正しく気持ちのいい文章で伝えるという事がうまく伝わればよいと感じた。
- ・ 正しい言葉遣いが出来ていない子供が多く、うちの子供もこのような話し方をしているのではないかと思います。このようにしっかりと言葉遣いを教えていただける教材はいままでになく、とても良い教材だと思います。
- ・ 学生ゆえ甘えもあり、敬語を使う機会も少なく、「TPO に応じたマナー」は社会人になる前に必要不可欠な事だと思います。また、臨機応変に対応出来るというアドバイスが就活にも役立ちそうです。

②改善点

- ・ 『TPO に応じたメールマナー』については、公式のものから、私的なものまで、もっと多くの事例が必要だと思われた。

(2) 『「調べ学習」でのネット活用』について

①良かった点

- ・ インターネットでの調べ方の落とし穴などが的確に盛り込まれていて良い教材だと思う。
- ・ 情報を鵜呑みにするのではなく、自分たちの考えも反映しているところが良い。
- ・ 親子同士の向かい合いのひとつの形をなしているところが良かった。

②改善点

- ・ 『「調べ学習」でのネット活用』については、最近問題になっている「コピー・ペースト」など、もっと踏み込んだ学習が必要だと感じた。
- ・ 調べ学習のテーマのワークシートは使いやすそうです。ただ、テーマが何件かあり選べるようになっているとよいと思います。

(3) 共通

①良かった点

- ・ 分かりやすかった。他のパターンも見なかった。
- ・ 映像、シナリオに対して子供たちが親近感を抱けそうな印象を受けました。
- ・ 実際に自分と同年代が行っていることなので素直に受け入れやすいと思った。
- ・ 実際に体験しそうな出来事、場面なのでわかりやすく、すぐに役立つ内容となっている。
- ・ 人から教えてもらうマナー、方法が映像になって見ることができるので素直に取り入れられそう。
- ・ 映像はドラマ仕立てになっているので、具体的でとてもわかりやすかった。
- ・ ワークシートは映像教材の要点をきちんと整理できるように、よくポイントがおさえられていると感じた。
- ・ ワークシートの内容もメールの内容やブログと本が比較して表示しているのもわかりやすくてよい。
- ・ 自分の言葉で考えを書くところが良い。
- ・ ひとつひとつをなぜそうしたのかを考えさせる部分が良いと思う。
- ・ テーマに沿ってわかりやすくまとめられていてよかったと思う。これを題材に家族での話し合いにつなげられればよいと思う。
- ・ 親の言う事は中々聞かないので、このようなビデオを子供達に見せたいと思う。
- ・ とても参考になった。自分の娘にもこうして指導できれば良いと思います。

②改善点

- ・ ポイントは「音声」で述べられているとよいと思う。
- ・ ワークシートの自由記入欄が多い。結構難しいかも。
- ・ ワークシートは解答例が欲しい。
- ・ 教材の問題の出し方が質問調になっている印象を受ける。質問のしかたを工夫したほうが良いと感じた。
- ・ 全体的に良かったと思うが、もう少し子どもにわかりやすい言葉でかみ砕いて説明した方がもっとよいと思う（使われている言葉が少し難しい、わかりにくいと感じた）。
- ・ 現実にあるような場面が事例になっており話にはスムーズに入れた。ただ、時間が半分ぐらいの方が、よくわかるのではないか。

4.4. 保護者 Web アンケートに関する考察

保護者 Web アンケートの結果、「教材活用意向」（本教材を子供に見せたいと思うか）は「TPO に応じたメールマナー」で 47.5%、「『調べ学習』でのネット活用」で 53.0%となっており、概ね良好な結果が得られた。

教材ごとに記載する。

(1) 「TPO に応じたメールマナー」

本教材の「教材有用度」（本教材の定めている学習ポイントが子供に役立ちそうか）については、「メールによるコミュニケーションの特徴や留意点等の理解を深めること」（55.0%）、「状況に応じたコミュニケーション手段の使い分けの必要性を意識すること」（56.0%）、「社会に出た際に求められるメールマナーの必要性を意識すること」（62.5%）となっており、それぞれ高い評価が得られた。

なお、「社会に出た際に求められるメールマナーの必要性を意識すること」が特に高い評価を得ている。自由記述から、メールに限らず最近の子どもたちはマナーや礼儀が乱れているため、広くマナーや礼儀を学ぶ教材としても有益であるといった感想がいくつか寄せられており、社会との接点を意識した学習を保護者は望んでいる様子が伺える。

(2) 「『調べ学習』でのネット活用」

本教材の「教材有用度」についても、「インターネット検索のポイントや気をつけること等の理解を深めること」（56.0%）、「内容や状況に応じた情報の調べ方（本、インターネット、インタビュー等）の使い分けの必要性を意識すること」（56.5%）、「単に情報を調べるだけではなく、自分たちの経験を踏まえた主張も大切であると意識すること」（59.5%）となっており、それぞれ高い評価が得られた。

その他、自由記述の中で、教材を通じて家族の中で話し合いに繋がりたいといった感想もあった。一方で、「全体的に良かったが、家庭で使用することを考えると、もう少し映像が短い方がよい、表現を易しくして欲しい」といった感想も散見された。中学校の低学年に対しても使用されることを想定すると、そのような配慮が必要だと考えられる。

以上の結果から、家庭の中で保護者と子供と一緒に学べる有用な教材となっていることが確認できた。

4.5. 【参考】アンケート調査票

保護者 Web アンケートで使用したアンケート調査票は、次のとおりである。

ICTメディアリテラシー教材に関する調査

近年、インターネットや携帯電話等のICTメディアを子どもたちが日常的に利用するようになり、子どもたちの生活における位置づけが大きくなる中で、ICTメディアに関連した様々な事件やトラブルも発生するようになってきました。

こうした状況下では、メディア機器の活用・操作能力の向上のみならず、メディアの特性を理解する能力、メディアにおける送り手の意図を読み解く能力、メディアを通じたコミュニケーション能力といった、“リテラシー”を養う教育の必要性も高まっています。

そこで、中学生・高校生を主な対象として、メールによるコミュニケーション、情報化社会への主体的な参加、インターネットの特性を踏まえたクリエイティビティ（創造性）、クリティカルシンキング（情報を批判的に読み解く能力）に関する能力向上を図るための教材を制作しました。

本教材は中学校・高校の授業の中で活用して頂くと共に、ICTメディアが家庭生活の中でも使用されていることを鑑み、保護者の皆様方を通じて、ご家庭の中でお子様と一緒に学べる教材にもなっております。

そこで、中学生と高校生のお子様がいいらっしゃる保護者の皆様方に本教材をご使用頂き、アンケート（質問は10問で、うち記述式が1問となります）にご回答頂きますよう、よろしくお願ひ申し上げます。以下の実施手順をご覧下さいませ。

<実施手順>

1. 教材の視聴

2つの映像教材（各8分程度）と関連したテキスト教材をご覧頂きます。1つめの「TPOに応じたメールマナー」は主に高校生、2つめの「調べ学習」でのネット活用」は主に中学生を対象に制作しております。

各教材を以下のURLからダウンロード（※）をお願い致します。

- ・ 映像教材：ビデオクリップ（WMV）
- ・ テキスト教材：ワークシート（PDF）

【URL】

※コンピュータにビデオ再生ソフト（Windows Media Player 等）、PDFビューワー（Adobe Reader 等）がインストールされていることをご確認ください。

2. アンケートへの回答

教材をご覧頂いた後に、アンケート（質問は10問で、うち記述式が1問となります）へのご回答をお願い致します。

Q 1. あなたのお子様の属性を選択して下さい。(複数回答可)

- ①中学生・男子 ②中学生・女子 ③高校生・男子 ④高校生・女子

【「TPOに応じたメールマナー」についてお伺いします (Q2～5)】

Q 2. 本教材(特に映像)をお子様に見せたいと思われませんか。(お答えは1つ)

- ①とてもそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない

Q 3. 本教材はお子様「メールによるコミュニケーションの特徴や留意点等の理解を深めること」に役立ちそうですか。(お答えは1つ)

- ①とてもそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない

Q 4. 本教材はお子様「状況に応じたコミュニケーション手段の使い分けの必要性を意識すること」に役立ちそうですか。(お答えは1つ)

- ①とてもそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない

Q 5. 本教材はお子様「社会に出た際に求められるメールマナーの必要性を意識すること」に役立ちそうですか。(お答えは1つ)

- ①とてもそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない

【『調べ学習』でのネット活用』についてお伺いします (Q6～9)】

Q 6. 本教材(特に映像)をお子様に見せたいと思われませんか。(お答えは1つ)

- ①とてもそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない

Q 7. 本教材はお子様「インターネット検索のポイントや気をつけること等の理解を深めること」に役立ちそうですか。(お答えは1つ)

- ①とてもそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない

Q 8. 本教材はお子様「内容や状況に応じた情報の調べ方(本、インターネット、インフォ等)の使い分けの必要性を意識すること」に役立ちそうですか。(お答えは1つ)

- ①とてもそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない

Q 9. 本教材はお子様「単に情報を調べるだけでなく、自分たちの経験を踏まえた主張も大切であると意識すること」に役立ちそうですか。(お答えは1つ)

- ①とてもそう思う ②そう思う ③どちらともいえない ④そう思わない ⑤まったくそう思わない

【「TPOに応じたメールマナー」「調べ学習』でのネット活用』の両方についてお伺いします (Q10)】

Q 10. 本教材(映像、ワークシート)について、「良かったところ」、「わかりにくかったところ」等を自由にご記入下さい。

--

以上

5. 今後の活動についての検討

ここでは、今年度の事業で開発した 2 本の教材の普及方策を検討すると共に、今後の教材開発の方向性について次のように整理した。

5.1. 普及方策について

(1) ウェブサイトでの公開方法の工夫

平成 21 年度と同様、教材はすべて総務省の「教育の情報化推進ページ」⁴で公開すると考えられる。ただし、現在のウェブサイト上での紹介の仕方では、ウェブサイトの下方の「イ. 中学生・高校生向け」の箇所に掲載されているだけで、初めての閲覧者にはみつけれにくい懸念がある。

「表記方法を目立たせる」、「画像イメージを入れて映像教材として認知させる」、「ビデオクリップやスライドなどの関係性や利用方法を簡潔に表記する」などの改善策が考えられる。

(2) 教材紹介リーフレットの配布

教育関係者等に配布するためのリーフレットを制作し、今年度の開発教材の特徴が一目でわかるような情報を盛り込む。リーフレットは、全国の教育委員会や、教育関係者等に視聴覚教材等を提供している全国の総合教育センターに配布する。リーフレットの PDF は上記ウェブサイトからもダウンロードできるようにする。

(3) 展示会への出展、セミナー等での紹介

次年度以降、全国規模の展示会への出展やセミナー等での紹介などが考えられる。これは、ICT メディアリテラシーに詳しくない教育関係者にも広くアピールするのが主な狙いである。ここでも、上記 (2) のリーフレットの配布が考えられる。

(候補)

- ・ 視聴覚教育総合全国大会
- ・ ニューエデュケーションエキスポ
- ・ 全日本教育工学研究協議会全国大会
- ・ まなびピア
- ・ MELL Platz (メル・プラッツ)
- ・ e-Learning World 等

(4) 学会等での発表

ICT メディアリテラシーに関係があり、同分野に関心が比較的高い専門家が集まっている

⁴ 総務省「教育の情報化推進ページ」
(http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/kyouiku_joho-ka/index.html)

学会等での発表により、教材の認知度と利用率の向上が期待できる。

(候補)

- ・ 日本教育工学会
- ・ 日本社会情報学会
- ・ 教育情報学会
- ・ 日本教育メディア学会
- ・ 情報文化学会 等

(5) マスコミ、出版関係

次のような媒体に本教材の広報活動を行い、取り上げられるように働きかけることが考えられる。

(候補)

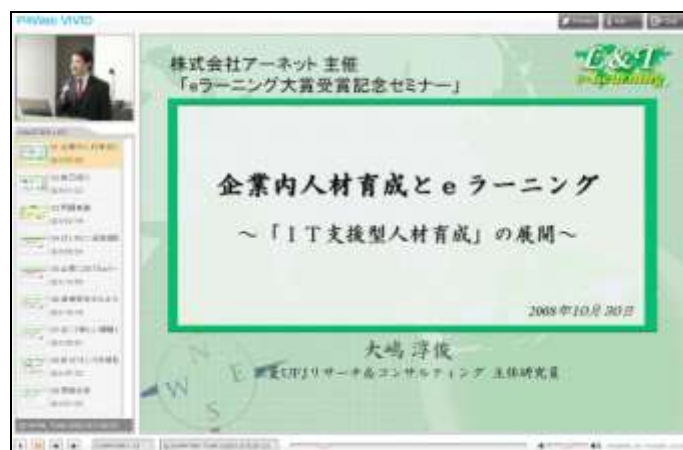
- ・ 日本放送協会 (NHK)
- ・ 教科書の出版社
- ・ 学術刊行物の出版社 等

(6) 公開型モデル授業の実施、ICTによる配信

学校で公開型モデル授業を実施し、教材の特徴や準備方法を紹介すれば、他の教員や教育委員会の情報教育担当者が見学に来る場合もあり、広報効果が期待できる。

また、実際の授業の様子を簡易eラーニング制作ソフトでeラーニング教材化してオンラインで公開することにより、ICTメディアリテラシーに詳しくない教員にも具体的に授業運営のイメージが伝わるようにすることも検討に値する。

(参考例) 簡易eラーニング制作ソフトで作成したeラーニング教材



出所： http://p4web.net/vivid/081030_1/main_body/lecture.html

5.2. これからの教材開発について

本事業において開発する教材の基本コンセプトとして、「ICT の有用性の再認識」、「既存の教材等と類似しない」、「“保護者等による家庭指導”を重視」を掲げた。

このコンセプトを再検討しながら、今後の教材開発の方向性やテーマなどについて整理する。

① ICT の適切な活用による有用性の再認識

「ICT の有用性の再認識」では、これまでのメディアリテラシー教材などが、ICT メディアに関する犯罪や虚偽の情報など、いわゆる「影」の部分を取り上げて教材化しすぎている嫌いがあり、子ども達に注意を喚起するのには役立ったが、実際にどのように有効に活用すればいいのかを考えさせるのには不十分である、という指摘に対応した結果であった。

経済社会の情報化がこれだけ進み、子ども達も否応なしに ICT を活用する場面が増えてきている。また、大人が思っている以上に子ども達は ICT メディアを使いこなしており、その傾向を止めることは必ずしも現実的ではないと思われる。さらに、最近の災害の多発により、防災情報の入手や実際に災害に直面したときに入手する情報の正確性や選別の重要性も増している。また、最近では、動画利用サービスや簡易ブログの普及など、ICT ツールの多様化と変化も急速に進んでいる。

そのためにも、ICT のメディアとツールの特性をよく理解した上で、状況にあわせた適切な利用方法と理解のポイントを会得することは、学校生活のみならず、日常生活を営む上でもますます重要になってきている。

ICT メディアの“光と影”をバランス良く理解した上で、萎縮することなく有効に活用することが極めて重要であり、そのための教材開発がより必要になっていると考えられる。

特に、昨今では子ども達だけではなく新社会人などのコミュニケーション能力不足についての議論が増えている。ICT を活用した“バーチャルなコミュニケーション”と対面による“リアルなコミュニケーション”の適切な組み合わせによる必要性についても留意する必要がある。

② 既存教材のテーマや内容との差別化と相互補完性

上記でも述べたとおり、ICT メディアリテラシーの関連教材の多くは、ICT メディアの“影”の部分に警鐘をならすタイプのものが多い。それを踏まえて、上記のとおり“光”の部分に、これまでより積極的に焦点を当てた教材は学校現場でも必要とされているという意見がよく聞かれており、より力を入れることが望ましい。

また、教材のテーマ（状況）設定については、2つのアプローチが考えられる。第1は、今年度開発した「メールの活用」や「インターネットの有効活用」といったテーマ以外の、新しい ICT メディアやツールの特性を理解させ、適切な活用方法を試すことができるよう

なアプローチである。

第2のアプローチは、今年度開発したテーマ（状況）設定の多様化・拡充である。学校でのアンケートや保護者アンケートでもみられたように、今年度の2つのテーマのニーズは極めて高く、今年度の教材だけで対応するのではなく、想定する利用場面の多様化などにより、多少の目先は変えながらもシリーズ化すれば、高いニーズに応えることができると考えられる。

さらに、これらを使いこなすノウハウ的な実践集を開発して、利用を促すことも考えられる。

③ “保護者等による家庭指導”の普及と強化

子ども達の場合、携帯電話やコンピュータの利用の大半は学校外がメインであり、利用環境やルール等も家庭によって大きく異なる。このような状況下においては、保護者による適切な指導・助言が肝要である。この考え方と取り組みを広げるためには、今後開発する教材は、保護者が「積極的に利用してみよう」、「関与した方が良い」と思えるような観点をより積極的に盛り込むことが必要である。

今年度の教材は、学校現場と保護者等による家庭指導の両面に配慮して開発したが、今後は、例えば保護者等による家庭指導の場面に特化した教材も必要とされることが考えられる。学校現場向けであれば学習指導要領との関係性の担保や授業時間（1 授業時間 50 分など）との関係性についても配慮しなければならないが、基本的に家庭指導だけであれば必要とされる時間を短くして手軽に利用できるようにしたり、ゲーム性など“面白さ”をもう少し取り入れたタイプの教材にすることも考えられる。または、保護者の指導能力にばらつきがあると思われるのであれば、教材自体をeラーニング化して、保護者と子どもが一緒に閲覧しながら学ぶタイプの教材の開発も考えられる。

このような学習活動は、実は子ども達だけでなく、ICTリテラシーが不足している保護者など大人への啓発活動にもつながるため、子どもから大人までを含めた情報化社会への適応能力の向上につなげることも期待できる。

さらに、このような考え方や教材の存在の周知を広めるために、地域や学校でのイベントなどを活用した集合形式でのセミナーと、その映像を収録してオンラインで配信するような普及啓発活動もあわせて行うことも考えられる。

日常生活・学校生活の営みから防災への配慮まで含めて、ICTの利活用は我々の生活を豊かにすると共に身を守る手段としてますます重要になってきている。

このように、ICTメディアリテラシーの教材開発と普及啓発活動の強化についての社会的要請は、ますます高まっているのである。